

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画

(シラバス)

科目名	医療と法	時期	2年次 前期	
講師	教職員他	単位(時間) 回数	1単位(15時間) 8回	
科目の概要	我が国の保健医療福祉に関する諸制度の概要と規定する諸法令を理解する			
目標	1 看護に関連する保健医療福祉及び労働に関する法令を理解する 2 保健師助産師看護師法に規定されている看護職の資格・業務・責任について理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令 医学書院			
参考文献				
評価	筆記試験			
授 業 計 画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1～2	看護法	1 保健師助産師看護師法 2 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	専任教員
3	労働法と社会基盤	1 労働基準法 2 労働安全保健法 3 労働契約法 他	講義	事務職員1
4	医事法	1 医療法 2 医療の資格に関する法律 ・医師法 他 3 医療を支える法 ・医療介護総合確保法 他	講義	事務職員2
5	移植医療	1 臓器移植に関する法律	講義	外部講師1
6	保健衛生法	1 感染症に関する法	講義	外部講師2
7	薬務法	1 薬事一般に関する法律 2 人などの組織を用いた医療関連法 3 薬害被害者の救済など 4 麻薬・毒薬など	講義	外部講師3
8	終了試験			専任教員

科目名	医療と倫理		時期	2年次 前期
講師	医師、看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 回数	1単位(15時間)8回
科目の概要	医療における倫理的問題と、看護の対象者である人間の尊厳と権利を擁護する責務を学ぶ			
目標	1 医療における倫理的問題を理解する 2 看護専門職としての倫理について理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 看護職の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会			
参考文献				
評価	筆記試験			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	担当講師
1	倫理学の基本的な考え方	1 医療と倫理 2 医学の歴史 3 倫理のとらえ方 4 生命倫理の理論	講義	医師
2	先端医療と倫理	1 性と生殖の生命倫理 2 先端医療と制度 ・移植医療、再生医療、遺伝子医療		
3	死の生命倫理	1 死と医療 2 死についての生命倫理の課題		
4	看護倫理とはなにか	1 看護倫理を学ぶ意義 2 看護の倫理原則 3 看護実践上の倫理的概念	講義	専任教員
5	専門職の倫理	1 看護実践と倫理 2 専門職の倫理綱領 3 保健師/助産師/看護師法と倫理	講義	
6	倫理的問題へのアプローチ	1 倫理的問題へのアプローチ法 2 症例検討シート	講義	
7	事例分析	1 事例におうじた看護倫理の問題と事例分析	演習	
8	終了試験			専任教員

科目名	看護学概論	時期	1年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)回数	1単位(30時間)15回
科目の概要	看護を实践するために必要な、健康、看護の概念、理論、看護の役割を学ぶ。		
目標	1 看護の概念を学び、看護の本質を探究しその役割を理解する 2 看護の対象としての人間を理解する 3 健康の概念、捉え方について理解する 4 看護における倫理の必要性を理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 看護職の基本的責務 定義・概念／基本法／倫理 日本看護協会出版会 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会		
技術経緯録			
評価	筆記試験		
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1	看護とは	1 看護の本質 2 看護の定義 3 看護の役割と機能	講義
2～3	看護の対象としての人間の理解	1 人間のこころとからだ 2 人間の「暮らし」の理解	講義・演習
4～5	人間の健康状態と生活	1 健康のとらえ方 2 国民の健康状態 3 国民のライフサイクル	講義
6	看護の提供者	1 職業としての看護 ・近代日本の看護 2 看護職の資格と養成にかかわる制度 3 看護職者の就業状況、継続教育とキャリア開発	講義
7	看護における倫理	1 現代社会と倫理 2 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3 看護の本質としての看護倫理	講義
8	看護の提供の仕組み	1 サービスとしての看護 2 看護サービスの提供の場 3 医療安全と医療の質保証 4 看護の質の保証	講義
9～14	看護理論と概念	1 主な看護理論家の理論 2 ハンダーソン「看護の基本となるもの」の読解 3 世界の看護の歴史とナイチンゲールの功績 4 ナイチンゲール「看護覚え書」の読解	講義・演習
15	終了試験		

科目名	看護過程		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	看護過程の基盤となる理論と看護過程のプロセスを踏まえた展開方法を学ぶ。また、看護実践に必要な看護記録について、その法的根拠と看護記録の基礎を学ぶ。			
目標	対象の健康問題を解決するための看護過程について基本的知識・技術を修得する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術I 医学書院 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 基準看護計画 臨床でよく出合う看護診断と潜在的合併症 照林社			
技術経路総録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~14	看護過程とは	1 看護過程の意義 ・5つの構成要素 2 看護過程展開の基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) リフレクション		講義
	看護過程の各段階と展開	3 看護過程の実際 1) アセスメント ・情報収集とアセスメントの進め方 ・ゴードンの機能的健康パターンの意味と分析の視点 2) 全体像の把握 3) 看護問題の明確化 4) 看護計画 5) 実施・評価		講義 事例を用いた 演習
	看護記録	4 看護記録 1) 看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ・看護記録の目的 ・叙述的経過記録 ・SOAP方式 2) 記録の保管・管理 ・記録(個人情報)の管理		講義
15	終了試験	※講義順序、詳細な授業計画は授業開始時に配布		

科目名	共通基本技術		時期	1年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	看護技術の特徴やコミュニケーションの基本的な方法、医療における安全性、学習支援について、その意義を理解し、基本的な知識と技術を学ぶ。			
目標	1 看護技術および技術を学ぶ目的を理解する 2 人間関係成立のためのコミュニケーションの基本的な方法を理解する 3 医療における安全確保・安楽確保の意義と基本的な援助技術を修得する 4 学習支援の意義と方法を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術経路録 演習項目	レベルⅠ スタンダードプリコーションに基づく手洗い、必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱、使用した器具の感染防止の取り扱い、感染性廃棄物の取り扱い、インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告、患者の誤嚥防止実施、体温調整の援助、安楽な体位の調整、安楽の促進・苦痛緩和のためのケア			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	担当講師
1~3	看護技術とは	1 看護技術の特徴・範囲 2 看護技術実践のための要素	専任教員 講義	専任教員 1
	コミュニケーション	1 コミュニケーションの意義と目的・構成要素・成立過程 2 関係構築に向けた基本技術と効果的な技術 3 コミュニケーション障害がある人への対応		
4~9	安全確保の技術	1 安全確保の基礎知識 2 感染防止 1)感染防止の基礎知識 2)標準予防策(スタンダードプリコーション) 3)感染経路別予防策 4)医療感染性廃棄物の取り扱い 3 転倒・転落防止 4 患者誤嚥防止	講義 演習 レベルⅠ 57.58.59 60.63.64 技術試験	専任教員 2
10	学習支援	1 看護における学習支援とは 2 学習支援の基本となる考え方と行われる場 3 健康状態の変化に伴う学習支援とその対象 個人 家族 集団	レベルⅠ 57.58 講義	専任教員 2
11~14	苦痛の緩和・安楽確保の技術	1 体位の保持(ポジショニング) 2 巻法 3 身体ケアを通じてもたらされる安楽 1)リラクゼーション法 2)熱布バックケア	講義 演習 レベルⅠ 29.69.70	専任教員 2
15	終了試験			

科目名	ヘルスアセスメント		時期	1年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	対象の健康状態を客観的かつ正確に把握するために、身体の情報を得てアセスメントする基本的な知識と技術を学ぶ			
目標	1 身体の情報収集の意義を理解し、その方法を修得する 2 収集した身体情報をアセスメントする意義を理解し、その方法を修得する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術I 基礎看護学②, 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス, インターメディカ			
技術経歴録 演習項目	レベルI バイタルサインの測定、身体計測、フィジカルアセスメント			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	ヘルスアセスメントとは	1 ヘルスアセスメントがもつ意味 2 ヘルスアセスメントにおける観察 3 ヘルスアセスメントにおける重要な視点		講義
3	フィジカルアセスメント	1 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 2 フィジカルアセスメントに必要な技術 問診・視診・触診・聴診・打診 3 全身状態・全体印象の把握 4 身体計測の方法と意義		講義
4～9	バイタルサイン	1 バイタルサインの観察とアセスメント 1) バイタルサインとは 2) 測定方法とアセスメント ・意識レベル・体温・呼吸・脈拍・血圧・SPO2 モニター 3) バイタルサインの記録・報告		講義、演習 レベルI 50
10～13	系統的フィジカルアセスメント	1 ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2 系統別(呼吸器系、循環器系、腹部(消化器系)、筋骨格系)のフィジカルアセスメントの実際 1) 各フィジカルアセスメントの目的 2) 各フィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3) 各フィジカルアセスメントの方法 3 心理・社会状態のアセスメント		講義、演習 レベルI 52
14		1 バイタルサイン測定 1) 体温測定 2) 血圧測定 3) 呼吸測定 4) 脈拍測定		技術試験 レベルI 50
15	終了試験			

科目名	臨床判断		時期	2年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回
科目の概要	臨床場面における状況を適切に判断し、対象の変化に応じた看護が実践する基礎的な考え方を学ぶ。			
目標	看護実践の場で行われている流利的かつ柔軟な判断・対処の実際を理解し、その基礎的な方法を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	アセスメントに自信がつく臨床推論入門、メディカ出版 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア			
技術習得記録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 演習・出席状況から総合的に評価する			
授業計画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1・2	臨床判断とは 臨床判断のプロセス	1 看護におけるアセスメント 1)アセスメントと臨床推論 2)アセスメントにおける臨床の6段階 3)アセスメントに活かす緊急レベル信号 2 臨床推論と臨床判断 1)臨床推論・臨床判断の「判断領域」と「思考の型」 2)臨床推論・臨床判断における「気づき」の正体 3)臨床推論を導く情報収集(OPQRST 問診と身体診査) ・ISBARC による報告 3 臨床判断モデル ・気づき ・解釈 ・反応 ・省察 事例によるファーストアセスメントと看護の判断	講義	専任教員
3・4	臨床判断に必要な思考	事例による気づくトレーニング	演習	専任教員
5	気づくトレーニング	臨床事例による臨床判断	演習	専任教員
6・7	事例展開		講義	臨床看護師
8	終了試験			

科目名	生活の援助技術Ⅰ		時期	1年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	環境の調整と活動の意義を理解し、安全・安楽・自立の視点で対象の健康を促進するための、基本的技術を学ぶ。			
目標	対象の生活を整えるための環境および活動と休息の援助技術を修得する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術録録 演習項目	レベルⅠ 快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換、車椅子での移送、歩行・移動介助、移乗介助、体位変換・保持、自動・他動・重動の援助、ストレッチャー移送 レベルⅡ 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	環境調整技術	1 療養生活の環境 2 病室の環境のアセスメントと調整 1)病室・病床の選択 2)温度・湿度、光と音 3)色彩、空気の清浄性などについて 4)人的環境		講義
3～9		3 療養環境の調整と整備 1)ベッド周囲の環境整備 2)ベッドメイキング 3)シーツ交換 4)臥床患者のリネン交換(シーツ交換)		講義・演習 レベルⅠ 1 技術試験 レベルⅠ
10～13	活動・休息援助技術	1 基本的活動の援助、基本的活動の基礎知識 1)よい姿勢 2)ボディメカニクス 2 体位 3 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)		1 レベルⅡ 65 講義・演習 レベルⅠ
14	睡眠・休息の援助	1 睡眠と休息の基礎知識 2 睡眠と休息のアセスメント 3 睡眠と休息を促す援助		13.14.15.16. 17.18
15	終了試験			講義

科目名	生活の援助技術Ⅲ		時期	1年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	清潔・衣生活の援助を行う意義を理解し、安全・安楽・自立の視点で対象の健康を促進するために必要な基本的技術を学ぶ。			
目標	1 対象の生活を整えるための衣生活の援助技術を修得する 2 対象の生活を整えるための清潔の援助技術を修得する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 任和子 医学書院			
技術経歴録 演習項目	レベルⅠ 足浴・手浴、整容、点滴・ドレーンなどを留置していない患者の寝衣交換、入浴・シャワー浴の介助、陰部の保清、清拭、洗髪、口腔ケア			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	清潔・整容の意義	1 清潔援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜・口腔内の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 清潔に関するニーズのアセスメント		講義
3・4	衣生活	1 衣生活援助の基礎知識 1) 衣服を用いることの意義 2) 対象の状態に応じた衣服の選択 3) 衣生活に関するニーズのアセスメント 2 寝衣交換の目的と援助方法・留意点		講義・演習 レベルⅠ 21
5～14	清潔	2 清潔援助の目的と援助方法・留意点 1) 入浴・シャワー浴 2) 清拭 3) 陰部洗浄 4) 洗髪 5) 部分浴(手浴・足浴) 6) 口腔ケア 7) 整容(洗面・爪切り・髭剃り)		講義・演習 レベルⅠ 22 24 23 25 19 26 20
15	終了試験			

科目名	診療の補助技術Ⅰ		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	健康障害を持つ対象に実施される治療や処置を理解し、対象に必要な検査と与薬の看護技術を学ぶ。			
目標	1 検査や治療・処置を受ける対象の苦痛や不安を軽減する方法を修得する 2 検査や治療・処置の効果が最大限に達成されるよう支援する援助方法を修得する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 経皮・外用薬の投与、検体(尿、血液等)の取り扱い、検査の介助ができる、 針刺し事故の防止・事故後の対応 レベルⅡ 経口薬の投与、坐薬の投与、皮下注射、筋肉内注射、静脈留置確保・点滴静脈内注射、 点滴静脈内注射の管理、静脈血採血			
評価	筆記試験、演習、課題レポート 出席状況などを総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～4	生体機能のモニタリング	1 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2 臨床検査の流れと看護師の役割 3 検体検査 1)血液検査 2)尿検査 3)便検査 4)喀痰検査 4 診察・検査・処置における技術 1)X線撮影 2)コンピューター断層撮影 3)磁気共鳴映像 4)内視鏡検査 5)超音波検査 6)肺機能検査 7)核医学検査 8)穿刺 5 検査値の読み方		講義 講義・演習 レベルⅡ 55
5～14	与薬	1 与薬の基礎知識 2 経口与薬法 1)内服 2)口腔内与薬法 3 その他の与薬法 1)経皮的与薬 2)直腸内与薬 3)点眼 4)点鼻 5)吸入 4 注射法 1)薬液の吸い上げ 2)注射の実施方法 ①注射の準備 ②皮下注射 ③皮内注射 ④筋肉内注射 ⑤静脈内注射 ⑥点滴静脈内注射		講義・演習 レベルⅡ 40 講義・演習 レベルⅡ 41・42・43・ 44・62
15	終了試験			

科目名	診療の補助技術Ⅱ		時期	1年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	診療の補助行為に関わる援助方法の基本について学ぶ。 検査及び治療、創傷管理等が必要な対象者に対して、安全・安楽な療養生活を支援するための援助方法を学ぶ。			
目標	3 身体状況に応じた、基本的な看護援助技術や対処方法を修得する 4 医療機器・器具の原理を理解し、安全に取り扱うための方法を修得する 5 援助や検査時の看護の役割について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
技術経歴録 演習項目	レベルⅠ 酸素吸入療法の実施、ネプライザーを用いた気道内加湿、体位ドレナージ、無菌操作 レベルⅡ 口腔内・鼻腔内吸引、褥瘡予防ケア、創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授業計画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1・2	感染防止の技術	1 感染経路予防策 2 医療施設における感染管理 3 洗浄・消毒・滅菌 4 無菌操作	講義 演習 レベルⅠ 61	専任教員
3～5	創傷管理技術	1 創傷管理の基礎知識 2 創傷処置 3 包帯法 4 褥瘡予防ケア 5 褥瘡ケア	講義 演習 レベルⅡ 36	専任教員
8～13	呼吸を整える技術	1 酸素療法中の看護 1) 中央配管 2) 酸素ボンベ 3) 在宅酸素療法(HOT) 2 排痰ケア 1)体位ドレナージ 2)口腔・鼻腔内吸引, 気管内吸引 3 吸入 4 胸腔ドレナージ 5 人工呼吸療法	講義 演習 レベルⅡ 35 講義 演習 レベルⅠ 30.31.34 レベルⅡ	臨床看護師 専任教員
14	循環を整える技術	1 体温管理の技術 2 末梢循環促進ケア	32 講義	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	臨床看護の実践 I		時期	2 年次 前期
講師	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師、臨床工学技士		単位(時間)、回数	1 単位(30 時間)、15 回
科目の概要	これまでに学んだ知識と技術を統合し、対象の状況に合わせた安全・安楽・自立／自律に留意した看護実践をするための思考と援助方法を学ぶ。また、対象の急変場面において必要となる救命処置の基本的な考え方と技術を学ぶ。さらに、現代医療において欠かせないモニタリングをはじめとする医療機器の基礎的な管理方法について、呼吸・循環等医学全般に対する幅広い理解をもとにした実践の方法を学ぶ。			
目標	1 その場の患者の状況に応じて、既習した看護技術を複数適用する援助技術を修得する 2 救急状況での看護の役割を理解し、一次救命の技術を修得できる 3 医療機器を使用する患者の看護を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 写真で分かる 臨床看護技術 2 アドバンス インターメディカ			
技術経歴録(No) 演習項目	レベルⅠ 点滴ドレーン等を留置している患者の寝衣交換(27)、緊急時の応援要請(47)、 一次救命処置(BLS)(48) レベルⅡ 気管内吸引(33)、医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、人工呼吸器等)の操作・管理(68)			
評価	筆語試験、技術試験、演習、出席、課題レポートなどを総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	担当講師
1～5	多重課題をもつ患者の看護実践	点滴やドレーン等を留置している事例によるモデル人形を用いたシミュレーション ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	講義・演習 レベルⅠ 27	専任教員
6～9	救命救急処置が必要な患者の看護実践	1 救命救急処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 救急・急変時における初期対応 3) トリアージ 2 心肺蘇生法 1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置の実際 3) 二次救命処置について 3 急変時の対応 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義・演習 レベルⅠ 47 レベルⅠ 48	臨床看護師
10・11	医療機器を使用する患者の看護実践	1 医療機器の取り扱い 1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 2) 心電図モニター 3) 人工呼吸器 4) 除腫器	講義・演習 レベルⅡ 68	臨床工学技士
12～14		2 看護の実践 1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ使用中の看護 2) 人工呼吸器を装着中の看護・挿管中の気管内吸引	講義・演習 レベルⅡ 33	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	臨床看護総論		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	基礎的知識と技術を統合し、ライフサイクル、健康状態、症状、治療を含めた看護の対象者の状況の理解を深め、実際の看護実践につながる思考と援助内容・方法を学ぶ			
目標	1 健康状態の経過の特徴とそれに基づく看護を理解する。 2 主要症状を示す対象への看護を理解する。 3 治療を受ける対象の看護を理解する。			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
技術経緯録 演習項目	レベルⅠ 放射線の被ばく防止策の実施 レベルⅡ 薬剤等の管理(毒薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍を含む)、輸血の管理、 人体のリスクの大きい薬剤の曝ばく予防策の実施			
評価	筆記試験 技術演習 課題レポート 演習・出席状況から総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～4	ライフサイクル・健康状態の経過に基づく看護	1 各期の特徴及び各期にある患者のニーズと看護援助、関連する理論 1)急性期における看護 2)慢性期における看護 3)リハビリテーション期における看護 4)終末期における看護 ・死後の処置・グリーフケア		講義
5～7	主要症状を示す対象者への看護	1 呼吸に関連する症状を示す患者の看護(呼吸困難) 2 循環に関連する症状を示す患者の看護・浮腫 3 安楽に関連する症状を示す患者の看護・疼痛		講義
8～9	輸液療法を受ける患者への看護	1 輸液療法の目的と特徴 2 輸液療法(中心静脈栄養法を含む)を受ける患者の看護援助		講義
10～11	化学療法を受ける患者への看護	1 化学療法の目的と特徴 2 化学療法を受ける患者・家族への看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援		講義
12	放射線療法を受ける患者への看護	1 放射線療法の目的と特徴 2 放射線療法を受ける患者・家族への看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援 3 放射線曝露の防止		講義・演習 レベルⅠ 66 レベルⅡ
13～14	輸血管理	1 輸血の適応 2 血液製剤の種類と取り扱い上の注意点 3 輸血管理の実施と患者の看護援助 ・治療前・治療中・治療後の支援・副作用・合併症		67 講義・演習 レベルⅡ 45、46
15	終了試験			

科目名	地域・在宅看護概論	時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	地域・在宅看護が推進されている社会的背景を踏まえ、看護職に求められる役割と地域・在宅看護の基盤となる考え方を学ぶ。統計から在宅看護を必要とする療養者と家族の特徴を捉え、その多様性・複雑性について学ぶ。医療機関から療養の場の移行に伴う看護と対象者を支える医療・介護・福祉の連携システムを学ぶ。		
目標	1 地域・在宅看護が必要とされる社会的背景と地域・在宅看護の概念について理解する 2 統計から地域・在宅看護の対象者の特徴について理解する 3 療養の場の移行に伴う看護と医療・介護・福祉との連携システムについて理解する		
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術経験録 演習項目			
評価	筆記試験、出席状況・態度、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～3	地域・在宅看護の概念	1 地域と生活の中で健康をとらえる看護の視点 2 地域・在宅看護の変遷と今後の課題 3 地域・在宅看護の原則 4 地域・在宅看護に求められる役割 1) パートナーシップ 2) 意思決定支援 3) 自立支援 4) ケアマネジメント 5) ヘルスプロモーション 5 地域・在宅看護における倫理	講義・演習
4～8	統計からみた地域・在宅看護の対象者の特徴	1 小児期、成人期、老年期のライフステージによる多様性 2 疾病や障害による健康レベル・健康課題の多様性 3 家族の定義と機能 4 家族システム理論・家族発達論 5 家族の多様性	講義・演習
9～10	療養の場の移行に伴う看護	1 医療機関における入退院支援 2 在宅療養の成立要件 3 地域連携クリニカルパス	講義・演習
11～14	地域・在宅看護と医療・ 介護・福祉との連携	1 統計からみた地域の多様性 2 地域包括ケアシステム 3 多様な場で提供される地域・在宅看護 4 地域・在宅看護における多機関・多職種との連携 1) 医療機関・行政・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所 介護サービス事業所との連携 2) 医療専門職・福祉専門職・介護専門職との連携	講義・演習
15	終了試験		

科目名	地域・在宅看護Ⅰ	時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(15時間) 8回
科目の概要	地域で療養する多様なライフステージ、健康レベルの対象の生活を支える制度と社会資源の活用に向けた看護師の役割と実践に結びつける方法を学ぶ。訪問看護制度の変遷と訪問看護制度の仕組みについて学ぶ。		
目標	1 地域・在宅看護にかかわる制度や社会資源の活用方法を理解する 2 訪問看護制度の変遷と仕組みについて理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		
技術経験録			
評価	筆記試験、出席状況・態度、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方 法
1～4	地域・在宅療養を支える制度とその活用	1 社会資源の活用 2 医療保険制度 3 後期高齢者医療制度 4 介護保険制度 5 生活保護制度 6 障害者に関連する法律 1)障害者総合支援法 2)発達障害者支援法 3)障害者を支える手当 4)障害年金 7 難病法 8 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 1)小児慢性特定疾患対策 2)療育医療 3)子供の在宅療養を支える手当 9 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 1)日常生活自立支援事業 2)成年後見制度 10 高齢者施策 1)医療介護総合確保推進法 2)認知症施策推進大綱 3)高齢者虐待防止法	講義・演習
5～7	訪問看護制度の変遷と仕組み	1 訪問看護制度の変遷 2 訪問看護制度の仕組み 1)介護保険法・健康保険法に基づく訪問看護 2)訪問看護ステーションの指定基準 3)訪問看護サービス開始までの流れ 4)訪問看護の費用	講義
8	終了試験		

科目名	地域・在宅看護Ⅲ	時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 回数	1単位(30時間) 15回
科目の概要	訪問看護の特徴や役割を捉え、在宅療養を支える基本的な訪問看護技術を学ぶ。療養者と家族のセルフマネジメント・リスクマネジメントの向上を目指し、日常生活の支援と異常の早期発見・早期対応に向けた支援を学ぶ。ライフステージ・健康レベルを踏まえ、多様性・複雑性をもつ対象のその人らしい生活を支援する看護を学ぶ。		
目標	1 訪問看護の特徴や役割を捉え、在宅療養を支える基本的な訪問看護技術を理解する 2 療養者と家族の日常生活の自立支援・安全管理に向けた支援を理解する 3 ライフステージ・健康レベルを踏まえ、多様性・複雑性をもつ対象の療養生活を支援する看護を理解する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版 強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程+総合的機能関連図 医学書院		
技術経路録演習	レベルⅠ 摘便		
評価	筆記試験、出席状況・態度、課題レポートなどを総合的に評価する		
授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1~4	在宅療養を支える 基本的な訪問看護技術	1 訪問看護の特徴 2 訪問看護師の役割 3 初回訪問の目的 4 ICFを用いたヘルスアセスメント 5 訪問時のマナーとコミュニケーション技術 6 日常生活を支える看護技術 1)在宅療養環境の整備 2)食事・排泄・清潔・移動の看護 3)生活リハビリテーション	講義 講義・演習 レベルⅠ 11
5~6	在宅療養者の日常生活における安全管理と 症状に応じた看護	1 在宅看護におけるリスクマネジメント 1)転倒・転落 2)誤嚥・窒息 3)感染症 4)熱中症 5)熱傷 2 症状に応じた在宅看護 1)発熱 2)消化器症状 3)疼痛 4)呼吸困難感	講義・演習
7~14	ライフステージ・疾患・ 病期・障害に応じた在宅 看護	1 障害をもつ在宅療養者と家族の看護 1)脳血管疾患 2)脊髄障害 2 難病をもつ在宅療養者と家族の看護 1)ALS 2)パーキンソン病 3 慢性期にある在宅療養者と家族の看護 1)糖尿病 2)心不全 3)呼吸器疾患 4 急性増悪した在宅療養者と家族の看護 5 終末期にある在宅療養者と家族の看護 1)ACP 2)維持期・悪化期・臨死期への支援 3)グリーフケア 6 認知症がある高齢の在宅療養者と家族の看護 7 小児の療養者と家族の看護	講義・演習
15	終了試験	1)医療的ケア児 2)重症心身障害児	

科目名	成人看護学概論		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	成人を身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解し、ライフサイクルにおける成人期の対象を理解し、成人期をとりまく健康課題と看護を実践するうえでの基礎を学ぶ。			
目標	1 成人期にある対象の特徴について理解する。 2 成人期にある対象の生活習慣やライフスタイルと健康課題との関連を理解する。 3 成人期にある対象の学習の特徴を理解し健康行動促進のための看護を理解する。 4 成人期にある対象の健康課題に有用な理論・概念を理解する。			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために 阿部祥子 医学書院 看護実践に活かす中核的理論 第2版 メヂカルフレンド社 厚生指針 国民衛生の動向 刊行版 厚生労働統計協会 生活習慣病のしおり			
技術経験録				
評価	筆語式試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～4	成人の特徴と生活・健康	1 成人の特徴 1)成人という対象の理解 ・生涯発達の特徴 ・発達段階、発達課題(エリクソン・ハヴィガースト) ・各発達段階の特徴(青年期・壮年期・中年期・向老期) 2 成人の生活 1)生活を営むこと 2)仕事をもち働くこと 3)家族からとらえる大人 4)人生をたどること		講義
5～13	成人における健康の保持・増進や疾病の予防	1 成人を取り巻く環境 1)人口 2)経済 3)成人の生活 4)日常生活の特徴 2 成人の健康の状況 1)生と死の動向 2)健康格差 3)職業性・業務上疾病 3 成人における健康の保持・増進や疾病の予防の対策 1)健康増進法 2)健康日本21 3)健康日本21(第二次) 4)がん対策基本法 5)特定健康診査・特定保健指導 6)スマートライフプロジェクト 4 成人における健康の保持・増進や疾病予防の看護アプローチの基本 1)大人の健康行動 2)行動変容ステージモデル・自己効力感 3)エンパワメント		講義 演習・グループワークによる健康教室開催
14	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションと看護 1)ヘルスプロモーション 2)ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動		講義
15	終了試験			

科目名	成人看護学Ⅱ		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	生命の危機状態(周手術期・救命救急)にある対象及びその家族に対して、生命の危機回避とQOL向上にむけた看護を 実践するための基礎を学ぶ。			
目標	1 生命の危機状態にある対象とその家族の特徴と看護を理解する 2 周手術期にある対象の特徴と創傷治癒を促進するための援助方法を理解する 3 周手術期にある対象の事例をとおして健康上の問題及び看護の方向性を考える			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版			
技術経験録				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授業計画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1	急性期にある 対象の特徴の 理解	1 健康の急激な破綻 2 急性期にある人の特徴 1)侵襲刺激に対する生体反応・心理的反応 3 急性期にある人の看護 1)危機理論 2)危機にある人々への支援	講義	専任教員
2~6	循環機能障害 のある患者の 看護	1 虚血性心疾患のある患者への看護 1)虚血性心疾患の原因と程度 2)経皮的冠動脈形成術 3) 冠動脈バイパス術 4)虚血性心疾患をもつ人の看護 2 心不全のある患者への看護 1)心不全の原因と程度 2)心不全の治療 3)心不全をもちながら生 活する人の看護 3 不整脈のある患者への看護 1)不整脈の原因と程度 2)ペースメーカー植込み術 3)ペースメーカーを装着した患者への看護 4 弁膜症のある患者への看護 1)弁膜症の原因と程度 2)弁置換術を受ける患者の看護	講義 演習:12 誘 導心電図	臨床看護師
7~11	周手術期看護	1 手術前の看護 1)身体面・心理面の準備 2)術後合併症を予防する 為の術前看護 2 手術中の看護 1)麻酔導入時の看護 2)手術体位による影響と援 助 3)安全管理 3 術後の看護 1)手術侵襲と生体反応 2)手術後の疼痛管理 3)創傷、ドレーン管理 4 術後合併症と予防 1)呼吸器合併症 2)血栓塞栓症 3)術後イレウス 4)術後せん妄 5)術後出血	講義	専任教員
12~14	周手術期の事 例展開	5 早期回復促進のための援助 1 胃がんの症状と看護 2 事例展開「幽門側胃切除術を受ける患者」	演習	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	成人看護学Ⅲ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	逃れられない死に直面した対象及びその家族に対し、個人の持つ価値観や人生観を理解し、死にゆく人の尊厳を守り、苦痛や苦悩をできる限り緩和し、その人らしく生を生き抜くための看護を実践する基礎を学ぶ。			
目標	1 終末期にある成人期の対象とその家族の特徴および看護を理解する 2 終末期にある対象の事例を通して、終末期看護について考える			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4]血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆語試験・出席・課題レポート・看護過程・グループワークなど総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1~2	人生の最期の ときを支える 看護	1 延命医療から患者の自己決定を重視した医療へ 2 人生の最期のときにおける緩和ケア 1)緩和ケア 2)エンドオブライフケア 3 人間にとっての死 4 全人的苦痛(トータルペイン) 5 人生の最期のときを支える看護 1)意思決定支援と看護師の役割	講義	専任教員
3~6	血液悪性疾患 患者の病期に 応じた看護援 助(白血病・悪 性リンパ腫)	1 白血病・悪性リンパ腫とは 2 化学療法を受ける患者の看護 1)化学療法の理解を促す看護 2)抗癌薬投与時の観察と援助 3)有害事象に対する症状マネジメント 4)長期合併症のアセスメントと援助 5)心身状態のアセスメント 3 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 1)造血幹細胞移植の理解を促す援助 2)ドナーの健康状態のアセスメントと援助 3)移植片対宿主病<GVHD>の観察と援助 4)移植病室在室中の患者の援助 5)心身状態のアセスメント	講義	臨床看護師
7~14	肺がん患者の 病期に応じた 看護援助 (看護過程)	1 肺がん患者の経過と看護 1)症状に対する看護 2)検査を受ける患者の看護 3)手術を受ける患者の看護 4)肺がん患者の看護 2 事例展開 :「肺がん患者の看護事例を用いて終末期事例」	講義・演習	専任教員
15	終了試験			専任教員

科目名	成人看護学Ⅳ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	2単位(30時間)、15回
科目の概要	様々な健康レベルにある成人期の対象を看護するために必要な援助技術を学ぶ 対象者が主体的な療養行動を新たに獲得し、その人らしい生活を再建するための支援に必要な援助技術を学ぶ。 また、対象者が最期までその人らしく生を抜くことを支えるための援助技術を学ぶ。			
目標	1 心身の状況に応じた援助技術を修得する 2 様々な状況にある対象者が主体的な療養行動を獲得するために必要な看護技術を修得する 3 緩和ケアに必要な基本的看護技術を修得する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 写真でわかる臨床看護技術2 インターメディカ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 第3版 医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版			
技術経験録(No) 演習項目	レベルⅠ 簡易血糖測定(54)、精神的安寧を保つためのケア(71) レベルⅡ 食事指導(4)、ストーマ管理(12)、ドレーン類挿入部位の処置(37)			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～9	手術を受ける対象の看護技術	1 術前の看護 1)呼吸訓練 2)深部静脈血栓予防 2 術後の看護 「成人看護学Ⅱ」の看護過程で計画した看護の実践 1)離床時の看護 2)創傷処置 ①滅菌操作 ②ドレーンガーゼの交換 3)血糖測定 4)パンフレットによる退院指導 3ストーマケア 1)ストーマの分類 2)ストーマ管理の実際		講義・演習 講義・演習 演習 レベルⅡ37 レベルⅠ54 レベルⅡ4 講義・演習 レベルⅡ12
10～12	セルフマネジメントが必要な対象の看護技術	1 セルフケア・セルフマネジメントを促す看護 ・事例をもとにセルフケア・セルフマネジメントを促す援助		講義・演習
13・14	緩和ケアが必要な対象の看護技術	1「成人看護学Ⅲ」の看護過程で計画した看護の実践 1) 身体的苦痛緩和の援助 2) 精神的苦痛緩和の援助 3) 援助的コミュニケーション 2 死後の処置		演習 レベルⅠ71 DVD 視聴
15	終了試験			

科目名	老年看護学概論		時期	1年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	ライフサイクルにおける老年期の特徴と高齢化に伴う保健・医療・福祉システム変遷を理解し、老年看護の基本となる考えを学ぶ。			
目標	1 加齢変化を捉え、老年看護の対象と役割について理解する 2 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート、授業態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~7	老年看護学の理論と 概念 高齢者の特徴	1 老化のメカニズム ・生理的老化と病的老化 2 老年看護学の変遷 3 老年看護における生活史 4 老年期の発達課題と老年看護に活用できる理論 ・生涯発達理論 ・サクセスフルエイジング ・ストレングスモデル 1 加齢に伴う身体的変化 (運動器・神経・感覚器・循環器・呼吸器・免疫・消化器・泌尿器・内分泌・生殖器) ・サルコペニア ・ロコモティブシンドローム ・フレイル ・老年症候群 2 加齢に伴う心理的・社会的変化 3 高齢者とのコミュニケーション方法		講義 演習 高齢者疑似体験 講義
8・9	我が国の高齢化問題	1 世界と比較した我が国の高齢化の推移 2 高齢者に関する統計とその背景 ・世帯数 ・就業と所得状況 ・有訴率 ・受療率 ・死因 ・事故		講義
10~12	高齢化に伴う保健医療 福祉システムの変遷	1 高齢者を支える法律と制度 ・老人福祉法 ・老人保健法 ・介護保険制度 ・高齢者住まい法 ・後期高齢者医療制度 ・医療・介護総合確保推進法 2 高齢者のヘルスプロモーションと介護予防 ・ゴールドプラン ・オレンジプラン ・余暇活動と生きがい 3 地域包括ケアシステム 4 多様な生活の場における看護とチームアプローチ		講義 講義
13・14	高齢者の権利擁護	1 ステイグマとエイジズム 2 ノーマライゼーション 3 高齢者虐待の実態と高齢者虐待防止法 4 成年後見制度 5 日常生活自立支援事業		講義
15	終了試験			

科目名	老年看護学Ⅰ		時期	1年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	高齢者特有の症候と健康問題を理解し、生活者としての視点を踏まえ、生活機能を維持・向上するための看護を学ぶ。治療を受ける高齢者の看護と人生の最終章を生きる老年期のエンドオブライフケアについて学ぶ。			
目標	1 老年期特有の症候による生活機能への影響を考え、高齢者の生活を支える看護について理解する 2 治療を受ける高齢者の看護について理解する 3 高齢者のエンドオブライフケアについて理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経録				
評価	筆記試験 課題レポート、授業態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1~10	高齢者の生活を支える看護	1 高齢者の生活機能と評価 ・ICF ・CGA ・FIM ・障害高齢者の日常生活自立度判定基準 2 目標志向型思考と生活行動モデル 3 高齢者のフィジカルアセスメント 4 高齢者に特有な症候と看護 1) 廃用症候群 7) 前立腺肥大症 2) 骨粗鬆症 8) 老人性白内障 3) 脱水症 9) 睡眠障害 4) 摂食・嚥下障害 10) 白内障と聴覚障害 5) 低栄養 11) 老人性皮膚掻痒症 6) 尿失禁・便秘・下痢 12) うつ病 5 高齢者のヘルスアセスメント		講義・演習
11・12	治療を受ける高齢者の看護	1 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者特有の薬物有害事象 ・ポリファーマシー 3) 服薬アドヒアランスと服薬管理支援 2 手術療法を受ける高齢者の看護 1) 手術侵襲のリスクとQOLを考えた適応 2) 高齢者に起こりやすい術後合併症と看護 ・呼吸器合併症 ・せん妄 3 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 1) 介護予防と在宅復帰に向けた退院支援		講義
13・14	高齢者のエンドオブライフケア	1 高齢者の死生観 2 高齢者の意思決定支援 1) アドバンスケアプランニング 3 高齢者の終末期看護		講義・演習
15	終了試験			

科目名	老年看護学Ⅲ		時期	2 年次 前期・後期
担当者	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1 単位(15 時間)、8 回
科目の概要	高齢者の特徴と老年特有の健康障害を踏まえ、生活機能とストレスに着目した看護過程の展開方法を学ぶ。 高齢者の QOL とその人らしい生活のあり方を考え、対象とその家族の支援について考える能力を養う。			
目 標	1 高齢者の特徴と老年特有の健康障害を踏まえ、生活機能とストレスに着目した看護過程の展開方法を理解する 2 高齢者の QOL を考え、対象とその家族の支援について理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子 医学書院			
技術経験録 演習項目				
評 価	課題レポート、グループワーク・演習への参加意欲・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項 目	内 容		方法
1~6	健康障害のある高齢者の看護過程の展開	アルツハイマー型認知症をもつ対象が大股関節股折を受傷し人工骨頭置換術を施行した事例（急性期から回復期の看護） 1 高齢者の特徴を踏まえたアセスメント 1) 加齢変化及び疾患による生活への身体的・心理的・社会的影響 ・入院前後の生活習慣とライフスタイル ・住宅環境への適応 ・入院前後の ADL の変化とセルフケア能力 ・高齢者のヘルスアセスメント ・対象・家族の希望と目指す回復像 ・加齢変化 ・入院環境・病態・治療による影響 ・高齢者特有の健康障害・合併症 ・サポート状況(家族・社会資源・地域) 2) 生活史と発症課題		講義・演習
7・8		2 アセスメントに基づいた看護計画の立案・実施 1) 加齢変化・疾患による生活機能の変化に合わせた援助 2) 入院前後の生活環境とライフスタイルを踏まえた援助 3) 対象の目指す回復像と QOL の維持・向上を考えた援助 4) 対象のもてる力・残存機能を活用したセルフケア獲得に向けた自立への援助 5) 老年期特有の事故防止・二次障害の予防に向けたリスクマネジメント 6) 安全・安楽を考慮した援助 7) 家族への援助 8) 退院後の生活を見据えた援助		演習

科目名	小児看護学概論		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	小児各期における子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもの最善の利益のために、子どもと家族の特徴と社会の変化を踏まえた小児看護の役割について学ぶ			
目標	1 小児看護の対象となる子どもの特徴と、看護の機能と役割を理解する 2 小児各期の特徴に適した基本的な生活習慣と養護を理解する 3 子どもを取り巻く社会環境と動向、子どもの健康上の課題を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護学各論 医学書院 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディアカ			
技術経歴録				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	小児看護学の特徴と理念	1 小児看護学の目指すところ 2 小児と家族の諸統計		講義
	子どもの成長・発達	3 小児看護の変遷 4 小児看護における倫理		
3		5 小児看護の課題		講義
	小児各期の成長・発達の 特徴	1 成長・発達とは 1) 一般的原則 2) 成長・発达到に影響する因子 3) 成長・発達の評価		
4		新生児		講義
5		乳児期		講義
6		幼児期		講義
7		学童期・思春期・青年期		講義
8・9	子どもの栄養	1 子どもにとっての栄養の意義 2 子どもと食育 3 発達段階別の子どもの栄養の特徴 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期・思春期 4) 思春期・青年期		講義・演習・人工 乳作成・離乳食体 験
10	子どもの養育と看護	1 乳幼児期の看護と生活指導 2 学童・思春期・青年期の看護と生活指導 3 子どもの遊びと発達 4 事故防止		
11~13	家族の特徴とアセスメン ト	1 子どもにとっての家族とは		講義
	子どもを取り巻く社会	1 児童福祉 2 医療費の支援 3 予防接種 4 学校保健 5 特別支援教育 6 臓器移植		講義
14	子どもの虐待と看護	1 子どもの虐待への対策の経緯と現状 2 子どもの虐待とは 3 リスク要因と発生予防・早期発見 4 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 5 求められるケア		講義
15	終了試験			

科目名	小児看護学Ⅰ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	医療が提供される場面であっても、常に子どもの成長・発達を踏まえて看護が展開されることを理解し、治療及び検査・処置における子供と家族に対する看護を学ぶ。			
目標	1 病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護を理解する 2 健康障害をもつ子どもに必要な治療環境及び検査・処置における援助を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護学各論 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 酸素吸入の実施、ネブライザーを用いた気道内加湿/バイタルサインの測定、検体(尿、血液)の取り扱い、安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防) レベルⅡ 点滴剤注射の管理			
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	1 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2 子どもの健康問題と看護		講義
2	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	1 入院中の子どもと家族の看護 2 外来における子どもと家族の看護 3 在宅療養中の子どもと家族の看護 4 災害時の子どもと家族の看護		講義
3・4	子どもにおける疾病の経過と看護	1 慢性期にある子どもと家族の看護 2 急性期にある子どもと家族の看護 3 周手術期の子どもと家族の看護 4 終末期の子どもと家族の看護		講義
5	子どものアセスメント	1アセスメントに必要な技術 1)コミュニケーション 2)バイタルサイン 3)身体計測		講義
6~8	検査・処置を受ける子どもの看護	1 子どもにとっての検査・処置体験 2 検査・処置各論 与薬・輸液管理・採血・採尿・腰椎穿刺・酸素療法・吸入		講義・演習 レベルⅠ 30.31.50.53 65
9・10	症状を示す子どもの看護	1 小児の主な症状の観察と看護 不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・けいれん発熱・嘔吐		レベルⅡ 44 講義
11~14	小児の遊び	1子どもにとって遊びとは 2発達段階に合わせた遊び		演習:発達に合わせた遊びの提供
15	終了試験			

科目名	小児看護学Ⅱ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	疾患や障害をもちながらも成長・発達段階にある子どもとその家族を理解し、疾患と症状、治療に伴う看護を学ぶ。			
目標	健康障害をもつ子どもとその親・家族への看護を理解する			
ディプロマポリシーとの関係	☑ 1.豊かな人間力 ☑ 2.看護を実践する力 ☑ 3.探求する力 ☑ 4.連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院			
技術習得記録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内容	方法	担当講師
1・2	低出生体重児の看護	1 胎外生活への適応を支える看護 2 成長・発達を支える看護 3 家族への看護	講義	臨床看護師1
3	急性胃腸炎の子ども の看護	1 脱水の評価と看護 2 輸液と栄養補給 3 清潔ケア・感染予防	講義	専任教員
4・5	ネフローゼ症候群の子ども の看護	1 急性期(欠乏期) 2 回復期(利尿期) 3 症状消失後 4 退院に向けて	講義	臨床看護師2
6	食物アレルギーの子ども の看護	1 アレルギー症状に対する看護 2 予防と日常生活における注意点(誤食防止)	講義	臨床看護師2
7~9	気管支喘息の子ども の看護	1 急性発作に対する看護 2 長期的管理に置ける看護 1)自己管理の促進(喘息症状のコントロール) 2)アドヒアランス向上への支援	講義	臨床看護師2
10・11	川崎病の子ども の看護	1 急性期の看護 2 回復期の看護 3 家族への看護	講義	臨床看護師2
12・13	白血病の子ども の看護	1 診断時の看護 2 治療を受ける看護 3 再燃・再発時の看護	講義	専任教員
14	障害のある子どもと家族 の看護	1 障害の捉え方 2 障害のある子どもと家族の特徴 3 障害のある子どもと家族への社会的支援	講義	臨床看護師3
15	終了試験			専任教員

科目名	小児看護学Ⅲ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回
科目の概要	小児の特徴を踏まえた看護過程の展開と、治療に伴う小児特有の看護技術を修得する。			
目標	1 子どもの治療に伴う看護の知識と技術を理解する 2 小児の特徴を踏まえた看護過程のプロセスを理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～3	検査・処置を受ける子どもの看護	子どもにとっての検査・処置における看護 発達段階・疾患・症状・治療・検査に応じた看護		講義 演習: プレパレーション
4～7	白血病の子どもの看護	白血病の発症がわかった学童期の子どもの事例展開 疾患、症状、検査、治療、学童期の発達段階における特徴、生活、家族・きょうだいへのケアの視点から、ゴードンの機能的健康パターンを用いて看護過程を展開する		演習: 看護過程
8	終了試験			

科目名	母性看護学概論		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	母性の対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解するため妊娠・分娩・産褥期および女性のライフサイクル各期の特徴・看護を学ぶ。母性をとりまく日本や諸外国の保健の動向や現状の課題について学ぶ。			
目標	1 母性の概念と母性看護の意義および特性について理解する 2 母性に関する諸問題、各期における母性の特徴を理解し、母性の健康保持・増進に必要な看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1・2	母性看護の概念	1 母性、父性、親性 2 母親・父親役割 3 母子相互作用 4 家族の発達・機能 5 ウエルネス		講義・演習
3	母性看護の倫理	1 生命倫理と看護倫理 2 倫理的意思決定 3 母性看護における安全・事故予防		
4~7	社会の変遷、現状と看護	1 歴史的変遷と現状 2 母子保健統計 3 関係法規・施策 4 周産期医療システム 5 災害時の妊産婦と家族支援 6 在留外国人の母子支援		
8・9	リプロダクティブ・ヘルス	1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2 セクシャリティ 3 ヘルスプロモーション 4 プレコンセプションケア 5 家族計画 6 人工妊娠中絶		
10	性と生殖機能のメカニズム	1 受精 2 ヒトの発生・性的分化		
11~14	ライフサイクル各期の看護	1 思春期・成熟期の健康と看護 1) 第二次性徴 2) 性意識・性行動の発達 3) 性周期 4) 月経異常 5) 性感染症 6) 不妊症・生殖補助医療 7) 性暴力・DV 2 更年期・老年期の健康と看護 1) ホルモンの変化 2) 閉経 3) 更年期症状 4) 骨盤臓器脱 5) 膣炎		
15	終了試験			

科目名	母性看護学Ⅰ		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康な母子と家族に対して必要な看護を学ぶ。			
目標	1 妊婦、産婦、褥婦、新生児のアセスメントに必要な知識を習得する 2 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象とその家族に必要な看護を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子 インターメディカ 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～4	正常な妊娠経過と看護	1 妊娠経過と胎児の発育 2 妊娠期の身体的変化、マイナートラブル 3 妊婦と家族の心理・社会的変化 4 妊婦の健康生活 5 健康の維持・増進への支援、セルフケア教育		専任教員 講義・演習
5～7	正常な分娩経過と看護	1 分娩経過と胎児の健康状態 2 産婦の心理・社会的状態 3 分娩各期の産婦の基本的ニーズと看護		
8～10	正常な産褥経過と看護	1 産褥期の身体的特徴 1) 退行性変化 2) 進行性変化 2 褥婦と家族の心理的・社会的変化 3 身体機能の回復への支援 4 褥婦の日常生活とセルフケア 5 育児技術、母乳育児への支援 6 親子の愛着形成および家族関係再構築の支援		
11～14	新生児の生理と看護	1 新生児の生理と身体機能 2 出生直後の看護 3 新生児期の看護		
15	終了試験			

科目名	母性看護学Ⅱ		時期	2 年次 後期		
講師	医師 臨床助産師 看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1 単位(30 時間)、15 回		
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期のハイリスクな母児、家族に対して必要な看護を学ぶ。 妊産褥婦および新生児を対象とした看護技術を学ぶ。					
目標	1 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常に伴う看護について理解する 2 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象に必要な看護技術を習得する					
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力					
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子 インターメディカ 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社					
技術経路録 演習項目	レベルⅠ 新生児の沐浴・清拭					
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容		方法	担当講師	
1～3	妊娠の異常と看護	1 高年・若年妊婦 4 妊娠貧血 7 妊娠高血圧症候群 10 常位胎盤早期剥離	2 多胎 5 不育症、切迫流・早産 8 妊娠糖尿病 9 前置胎盤	3 妊娠悪阻 6 感染症	講義・演習	臨床助産師1
4・5	分娩の異常と看護	1 前期破水 3 胎児機能不全 5 帝王切開術	2 微弱陣痛・過強陣痛 4 分娩時異常出血		講義・演習	臨床助産師1
6～8	産褥の異常と看護	1 子宮復古不全 4 精神障害	2 産褥熱 5 帝王切開術後	3 乳房トラブル	講義・演習	臨床助産師2
9	新生児の異常と看護	1 早産児 3 新生児ビタミンK欠乏症	2 高ビリルビン血症		講義・演習	臨床助産師2
10	新生児蘇生技術	NCPR		講義	医師	
11～14	母性看護に関連した技術	1 妊婦 腹囲・子宮底測定 胎児心拍数聴取 胎児心拍数陣痛図 2 産婦 産痛緩和 3 褥婦 子宮復古の観察 産褥体操 ポジショニング・ラッチオン 4 新生児 全身の観察 清拭・沐浴 オムツ交換 授乳	レオポルド触診法 胎児心音聴取	講義・演習 レベルⅠ 28 演習: 妊婦計測 褥婦観察 新生児観察	専任教員 専任教員	
15	終了試験					

科目名	母性看護学Ⅲ		時期	2年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回
科目の概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族を理解し、看護過程を展開する。			
目標	1 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における看護過程の特徴を理解する 2 対象となる妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族を関連させた看護過程を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社			
技術経歴録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 出席状況・態度などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方 法	
1	母性看護学における看護過程	母性看護学における看護過程の特徴 全体論的な対象の把握 家族・適応過程 健康の保持・増進への看護 ウェルネス志向の看護判断について	講義・演習	
2	妊娠期にある対象の看護過程	妊娠中期 妊婦の看護過程 高リスク妊婦の事例の展開		
3	分娩期にある対象の看護過程	分娩第1期 産婦の看護過程 早期破水がみられた産婦の事例展開		
4~6	産褥期にある対象の看護過程	褥婦の看護過程 1 経産分娩をした初産婦の事例展開 2 帝王切開術を受けた経産婦の事例展開		
7	新生児期にある対象の看護過程	新生児の看護過程 正常分娩で出生した新生児の事例展開		
8	終了試験			

科目名	精神看護学概論		時期	1年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	精神看護の二側面の一つである精神保健を中心に、精神看護の意義と目的を理解するために、精神の健康の概念や心の機能と発達について学ぶ。さらに、精神保健医療福祉の変遷および障害をもつ人を支える法律について学ぶ。			
目標	1 精神保健の基本と、保持・増進に向けた活動について理解する 2 精神看護の対象の理解と支援のための概念について理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉			
技術習得記録 演習項目				
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する			
授業計画				
回数	項目	内容		方法
1~3	精神の健康の概念 精神保健の考え方	1 精神の健康の定義 2 心と脳の機能 3 精神保健医療福祉の改革ビジョン 4 精神障害の一次予防・二次予防・三次予防 5 リカバリーと精神医療		講義
4・5	心のはたらきと人格形成 危機(クライシス)	1 精神力動(フロイト,S)と防衛機制 2 転移感情		講義
6・7		1 危機の概念・予防・対処 1) 危機受容(フィンク,S,L) 2) 危機理論(アギユララ,D.C、キャプラン,G) 2 心的外傷(トラウマ)		講義・演習
8~10	精神保健医療福祉の変遷 と看護	3 ストレスコーピング 1 諸外国および日本における精神医療の変遷 2 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)の基本的な考え方		講義
11	家族と精神の健康	3 精神障害と法制度		講義
12	暮らしの場と精神の健康	1 家族とは (夫婦関係、親子関係、家族システム)		講義
13・14	精神の健康とマネジメント	1 学校と精神の健康 (いじめ、不登校、ひきこもり、自殺) 2 職場・仕事と精神の健康 (ハラスメント、アディクション、自殺)		講義
15	終了試験	1 リエゾン精神看護 2 感情リテラシーと看護師 3 災害時の精神保健医療活動		講義

科目名	精神看護学Ⅰ		時期	2年次 前期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回	
科目の概要	精神障害の中で入院患者の割合の多い代表的な疾患(統合失調症、気分障害など)の特徴と看護について学ぶ。また患者-看護師関係構築のための治療的コミュニケーション技法の修得および自己洞察のための再構成について学ぶ。			
目標	1 精神の健康障害のある人の健康状態に応じた看護について理解する 2 主な精神疾患・障害の特徴と看護について理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院			
技術経路録 演習項目				
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～3	精神看護の対象の理解 と支援のための概念	1 精神を病むということ 2 精神症状と状態像		講義
4～7	主な精神疾患・障害の特 徴と看護	1 統合失調症 2 気分障害 3 神経定性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 4 パーソナリティ障害 5 知的能力障害 6 発達障害 7 てんかん		講義
8～10	精神看護の対象理解の 概念と支援の実際	1 オレム・アンダーウッド看護モデル:セルフケアへの援助 (食物、水分の摂取、呼吸、排泄、清潔と身だしなみ、活動と休息、 対人関係、安全)		講義
11～14	援助関係の構築	1 精神科コミュニケーション技法 2 H.E,パプロウ:人間関係論 (患者-看護師関係、プロセスレコードの活用)		講義および演習 演習:コミュニケ ーション技法、プ ロセスレコード
15	終了試験			

科目名	精神看護学Ⅲ		時期	2年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(15時間)、8回
科目の概要	慢性期にある統合失調症、気分障害の対象を事例にした看護過程を実際に展開し、アセスメントや援助計画を立案することにより、基礎的知識・技術を深める			
目標	1 精神科における代表的な疾患の看護過程に必要な知識と方法を理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト				
技術経路録 演習項目	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院 全人的視点にもとづく精神看護過程第2版, 医歯薬出版株式会社			
評価	筆記試験、演習、出席状況、課題レポートなど総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1	精神看護における看護過程	1 精神科におけるヘルスプロモーション型看護過程について		講義
2・3	うつ病患者の看護過程の展開	1 うつ状態にある患者に対し、ゴードンの11の機能的健康パターンを活用して看護過程を展開する		演習・看護過程
4		発表		
5・6	統合失調症患者の看護過程の展開	1 統合失調症(慢性期)患者に対し、ゴードンの11の機能的健康パターンを活用して看護過程を展開する		演習・看護過程
7		発表		
8	終了試験			

科目名	看護研究		時期	3年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員、臨床看護師		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	看護実践の質を高め、科学的根拠に基づく看護実践を行うために、看護研究の基礎を学ぶ。また、自己の看護実践の振り返り(ケーススタディ)を通して、研究的視点と態度を学ぶ。			
目標	1 看護における研究の意義と方法がわかる 2 研究のプロセスとその進め方がわかる 3 研究の一連の過程をとおして、科学的思考と研究的態度をもつことができる			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社			
技術経歴録 演習項目				
評価	提出物の内容・提出状況、研究論文の内容・看護研究発表の実際等より総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1～2	看護における研究の意義	1 研究とは何か 2 看護研究の意義 3 リサーチクエスション 4 文献検索 5 看護研究と倫理 6 研究デザイン		講義
3	事例研究の意義・目的	1 事例研究とは ・ ケーススタディとは 2 事例研究の進め方 3 事例研究と倫理的配慮		講義
4～5	事例研究の計画	1 研究のテーマの設定 2 研究計画書の作成 3 文献検索の方法		講義
6～10	事例研究の実施	1 研究計画書の検討 2 文献検索・文献検討 ・ 文献の引用方法 3 論文の作成 4 抄録の作成 5 口演・スライド作成の留意点		講義・演習
11～13	研究発表準備	1 発表原稿作成 2 スライド作成 3 発表会の運営準備と役割 4 発表練習		講義・演習
14～15	研究発表会	1 発表 2 質疑応答 3 発表会の運営		演習

科目名	看護管理と医療安全		時期	2年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員 病院看護管理者 セーフティマネージャー		単位(時間)回数	1単位(30時間)15回
科目の概要	組織として看護を提供する際に必要な看護管理について、基盤となる知識と技術、マネジメント能力を学ぶ。また、安全な看護を提供するために必要な基本的知識と技術を学ぶ。			
目標	1 看護マネジメントに必要な知識を修得する 2 看護を取り巻く諸制度の概要を理解する 3 医療安全に向けた日本の対策と組織の安全管理の仕組みを理解する 4 事故発生のメカニズムと防止対策、事故分析の方法を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 ②ナーシング・グラフィカ 医療安全 メディカ出版 ②医療安全ワークブック 川村治子 医学書院			
技術経験録 演習項目				
評価	筆記試験 課題レポート 演習内容 出席状況から総合的に判断する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方 法	担当講師
1・2	看護ケアのマネジメント	1 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2 患者の権利尊重、安全管理 3 多職種協働・連携・チーム医療 4 看護業務の実践	講義	病院看護管理者
3～5	看護職のキャリアマネジメント 看護サービスのマネジメント	1 キャリアとキャリア形成 2 看護職のキャリア形成 3 看護専門職としての成長 4 ストレスマネジメント 1 看護サービスのマネジメント 2 組織目的達成のマネジメント 3 看護サービス提供仕組みづくり 4 人材のマネジメント 5 施設・設備環境、物品、情報のマネジメント		
6	マネジメントに必要な知識と技術	6 組織におけるリスクマネジメント 7 サービスの評価 1 組織とマネジメント 2 リーダーシップとマネジメント 3 組織の調整		
7	看護を取り巻く諸制度	1 看護管理に関する法令 2 医療制度		
8～10	医療安全の取り組みと医療の質の評価	1 医療安全の重要性・その取り組み 2 医療事故等の定義・分類 3 医療事故の報告制度 4 医療の質の評価	講義・演習	セーフティマネージャー
11・12	事故発生のメカニズム、リスクマネジメント 看護業務の安全を脅かすリスクと対策	1 事故発生のメカニズム 2 事故分析・事故対策 3 KYT の実際 1 看護業務と事故発生要因 2 医療事故の種類と安全対策 3 看護職の業務上の危険と対策		
13・14	看護学生の実習と安全	1 実習における事故と法的責任 2 実習中の事故発生時の学生の対応 3 事例によるリスクアセスメント(実習で遭遇する場面)	講義・演習	
15	終了試験	・シャワー浴介助 ・足浴 ・移乗介助 等		専任教員

科目名	災害看護と国際看護		時期	2年次 後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員 医師 臨床看護師		単位(時間)回数	1単位(30時間)15回
科目の概要	災害急性期から慢性期の各期における対象への看護及び関係機関との連携等災害看護の基礎を学ぶ。 国際社会における看護の必要性を理解し、国内外における国際協力と看護活動を学ぶ。			
目標	1 災害及び災害看護に必要な基礎知識を修得する 2 災害時における看護の特徴及び災害各期の看護について理解する 3 国際看護における国際協力の仕組みと国際看護の対象について理解する 4 世界の健康問題、諸外国の看護を理解し、看護の国際協力について考える			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学 医学書院			
技術経歴録				
評価	筆記試験、課題レポート			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方 法	担当講師
1	総論	病院の災害医療の対策と現状	講義	医師
2~4	災害及び災害看護に関する基礎的知識	1 災害の歴史 2 災害の定義 3 災害の種類と健康障害 4 災害医療の特徴 5 災害サイクル各期の看護の特徴 5 災害看護と法律 6 災害時のこころの変化とケア ・被災者 ・遺族 ・救援者	講義	専任教員
5~7	災害サイクルに応じた看護活動 被災者特性に応じた災害看護 看護支援活動の実際	1 災害看護の基本姿勢 2 災害時の地域アセスメント 3 災害サイクル各期における看護活動 4 避難所・仮設住宅・復興住宅における看護 5 災害関係機関の支援体制 6 災害ボランティア 1 被災者特性に応じた災害看護 ・子ども ・妊産婦 ・高齢者 ・障がい者 ・慢性疾患患者	講義	臨床看護師
8	国際看護学の現状と課題	1 国際看護学とは ・世界の健康問題の現状 ・国際看護の対象	講義・演習	臨床看護師
9・10	国際協力と看護	1 国際協力の仕組み ・国際連合システム ・NGO ・ODA 2 開発協力と看護 ・貧困と健康問題・対策	講義	専任教員
11~13	文化を考慮した看護	1 日本における在留外国人への看護 2 異文化の理解 3 紛争地における看護	講義・演習	専任教員
14	国際看護活動の実際	1 国際看護活動の展開プロセス ・活動の実際	講義・演習	外部講師 (JICA)
15	終了試験			専任教員

科目名	臨床看護の実践Ⅱ		時期	3年次 前期・後期
講師	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間)、回数	1単位(30時間)、15回
科目の概要	事例の状況に応じ、予測性・個性をもってアセスメントすることができ、必要かつ安全な看護を考え実践する方法を学ぶ			
目標	1 看護実践場面に応じた安全・安楽、倫理的配慮を考慮した看護を実施する 2 複数患者の状況・状況のアセスメントから、優先順位の根拠を考え、場面に応じた臨床判断・看護を実施する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 統合分野 医療安全 メディカ出版			
技術経路録 演習項目				
評価	課題レポート、演習、出席状況などから総合的に評価する			
授 業 計 画				
回数	項目	内 容		方法
1	多重課題と優先順位	1 多重課題と優先順位 2 多重課題発生時の対処方法 3 SBAR を用いた報告		講義
2	看護倫理に基づく看護実践	1 看護倫理と看護実践		
3~7	複数患者の事例展開	1 複数患者の事例理解 1) 事例患者の状況・状況把握 2 優先順位の判断・根拠 3 1勤務帯の行動計画立案 1) 時間管理と業務の組み立て		講義・演習
8~12	複数患者の看護実践	1 事例患者の状況把握と状況判断 2 患者に応じた看護実践の具体化 1) 安全性・安楽性・自立 2) 倫理的配慮 3 緊急性・優先順位を考えた判断と安全・安楽な看護実践 4 突発的事案発生時の判断と対応 1) 協力・支援要請 2) 報告・連絡・相談		講義・演習
13~15	様々な患者の状況に応じた看護実践	1 事例患者の状況に応じた看護実践 1) 安全・安楽の視点 2) 倫理的視点 3) 時間管理		演習

科目名	基礎看護学実習Ⅰ	時期	1年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	1単位(35時間)、6日間
科目の概要	本実習で、看護学生として初めて看護の対象と看護活動の実際場に臨む。既習の基本的な看護の概念・看護の対象・看護理論(ナイチンゲール・ヘンダーソン)の視点をもって、実際の看護活動や看護の対象者の状況に触れ関連した理解を深める。あわせて、実習での看護学生としての基本的な姿勢を学び、これから学ぶ看護の内容への意味を探究する力も養う。		
目的	健康障害を持つ人を理解し、状況に応じた看護を実践するための基礎的な知識、技術、態度を修得する		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 入院生活を送る対象の思いや体験していることに関心をむけ、コミュニケーションを図り、基本的ニーズを理解する	1) 入院生活を送る対象の思いを説明する 2) 入院生活を送る対象の体験していることを説明する 3) 入院生活を送る対象の基本的ニーズをヘンダーソンの理論を用いて説明する 4) 入院生活を送る対象を尊重した態度、言葉で対応する 5) 入院生活を送る対象に関心を寄せ主体的に関わる 6) 入院生活を送る対象の立場や状況を考慮して話しやすい環境を整える
2 対象の入院している環境を理解する	1) 対象の入院している病室環境を具体的に説明する 2) 対象の入院している環境をナイチンゲールの理論を用いて説明する
3 病棟での看護活動を見学し、看護がどのように実践されているかを理解する	1) 看護師が入院している対象をどのように観察し状態を把握しているのか学びを述べる 2) 看護師と入院している対象との関りからコミュニケーションにおける学びを述べる 3) 看護師が行う入院している対象への看護から、対象にとっての安全への配慮面の学びを述べる 4) 看護師が行う入院している対象への看護から、対象にとっての安楽への配慮面の学びを述べる 5) 看護師が行う入院している対象への看護から、対象の個別に応じた配慮面の学びを述べる 6) 看護師の役割と看護の魅力について自分の考えを述べる
4 看護を学ぶ学習者として主体的に学ぶ姿勢・態度を修得する	1) 実習中に知り得た患者・家族及び医療者の情報などに関する守秘義務を遵守する 2) 自ら必要に応じて適切に報告・連絡・相談する 3) 看護職として自覚を持ち、約束やルールを守る
5 実習を通し看護の魅力について、学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする	1) 看護活動の実際から「看護の対象と看護活動の実際を理解したうえで考える看護で大切なこと」を述べる 2) 実習全体を通して主体的に学習し、自己の課題を明確にできる

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	2 H	オリエンテーション
	4.5 H	事前研修
	2.5 H	実習のまとめ：全体カンファレンス
県立新発田病院(病棟)	26 H(4日)	治愈および回復が困難な対象とその家族の看護

III 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	1単位(35時間)、6日間
科目の概要	本実習では、基礎看護学実習Ⅰで習得した内容に加えて、臨床場面において、健康障害をもつ対象の理解を広げ、基本的な看護技術の援助を実践する。学生は、受持ち患者の生活行動・機能の視点での範囲において、主体的に情報収集をすすめる。さらに患者の健康障害について、基本的な疾患の理解と現状で行われている範囲での検査・治療・看護について学び、これらの情報の範囲でアセスメントをする。基本的な看護の援助計画を立案し、看護師(教員も含む)の判断・見守りのもと実施し、評価する。実習を通して、今後の看護を実践する意義や魅力を探求する力を養う。		
目的	健康障害を持つ人を理解し、状態に応じた看護を実践するための「基礎的な知識、技術、態度を修得する。		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 対象の疾患と受けている検査や治療と看護について理解する	1) 受け持ち患者の疾患、病態、現在の症状について情報収集し記述する 2) 受け持ち患者に行われている治療、検査について情報収集し記述する 3) 疾患、病態、症状、検査、治療が対象の日常生活にどのように影響をあたえているか記述する
2 生活行動・機能の視点に沿って対象の状態をアセスメントする	1) 対象の生活行動の分析に必要な情報を収集する 2) 対象のバイタルサインの値を分析する 3) 対象の療養環境の情報を分析し、援助の必要性を判断する 4) 対象の栄養・代謝に関する情報を分析し、援助の必要性を判断する 5) 対象の排泄に関する情報を分析し、援助の必要性を判断する 6) 活動・運動に関する情報を分析し、援助の必要性を判断する 7) 睡眠・休息に関する情報を分析し、援助の必要性を判断する 8) 対象の個別の状態に応じ、日常生活援助の留意点を記述する 9) 対象の安全・安楽の視点から、日常生活援助の留意点を記述する
3 対象の状態に合わせた日常生活援助を看護師と共に実施する	1) 計画した援助を看護師または教員と安全・安楽に実施する 2) 計画した援助を、「看護技術を支える構成要素」に沿って看護師または教員と実施する 3) 計画した援助を準備から後片付けまで責任を持ち実施する 4) 計画した援助を患者の反応をふまえて振り返る 5) 日々の実践を患者の反応をふまえて振り返る 6) 日々の実践内容を看護師に報告する
4 看護における疑問や問題に気づき、グループメンバーと協力しながら、その解決に向けて積極的に取り組める	1) 対象に関心を向け対象を理解するため、看護学生としてふさわしい身だしなみ・態度・言葉づかいで他者と関わる 2) 対象の反応を観察し、言動や言動以外で表現していることにも関心を向けたコミュニケーションを行う 3) グループメンバーの意見を尊重しながら、自分の考えを述べる 4) 疑問なことは自己学習し、その内容を実習にいかせる 5) 実習中に知り得た患者・家族及び医療者の情報等に関して守秘義務を守る 6) 「患者の日常生活を支援する意義」について、文献を活用し自己の考えを記述する 7) 一連の実習をとおし学んだことから、自己の課題を見出し記述する

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	6.5H(1日)	オリエンテーション、事前研修
県立新発田病院(病棟)	26H(4日)	1事例を受け持ち、患者の状態に応じた日常生活援助を実践する
学内	2.5H(1日)	まとめ

III 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	基礎看護学実習Ⅲ	時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
目的	健康障害を持つ人を理解し、状態に応じた看護を実践するための「基礎的な知識、技術、態度を修得する。		
科目の概要	本実習では基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱで修得した実習の基本となる内容に加えて、看護過程の思考をもって実際に看護展開を実施する。受け持ち患者の情報収集、アセスメント、全体像の把握、看護問題の明確化、看護計画の立案、援助の実践、看護目標の評価まで、助言を受けながら主体的に進める。看護実践の基礎となる本実習を通して、看護に対する価値を見出し、自己の課題を明確にし、を探究する力を養う。		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 患者との信頼関係構築にむけた行動を実践する	1) 患者に深い関心を持ちあるがままの患者を受け止めようとする態度で接する 2) 患者の状況・状態に応じた効果的なコミュニケーション技法を用いている
2 患者の理解に必要な情報を収集し、分析・解釈を行い、患者の全体像を理解する	1) 患者の全体像を理解するために必要な情報を、適した方法で収集し説明する 2) 得られた情報を関連づけながら患者の病態を分析・解釈する 3) ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて情報を収集し体系的に分類する 4) 患者の健康障害が生活行動へ及ぼす影響について、得られた情報を関連づけながら分析・解釈する 5) 患者の健康障害が心理・社会面へ及ぼす影響について、得られた情報を関連づけながら分析・解釈する 6) 分析・解釈した内容を全体像として図式化する 7) 図式化した情報から患者の全体を把握し、看護の方向性を記述する
3 患者に生じている看護問題を明確化し、患者の個別性に応じた看護計画を立案する	1) 患者に生じている看護問題に関連する事柄を、関連因子、危険因子、症状・徴候の情報を関連させて分析する 2) 看護問題に関連する事柄の分析から成り行きを考え、看護問題を明確化できる 3) 長期目標と短期目標を評価可能な行動レベルで設定する 4) 看護計画は、具体的に実践可能な表現で記述する(5W1H) 5) 患者の状況に応じた個別的な看護計画を立案する 6) 看護計画の具体策に対し、個別に応じた根拠を説明する
4 看護計画を患者の状況・状態に応じた方法で実践し、評価する	1) 実施する援助について患者の理解状況に合わせた方法で説明する 2) 患者の状況・状態に応じた安全・安楽を考慮し実践する 3) 患者の個別性を考慮し、創意工夫し実践する 4) 患者のプライバシーに配慮して実践する 5) 日々の看護実践を、患者の反応や援助結果から振り返る 6) 日々の振り返りから、患者の状況・状態に合わせて看護計画を追加・修正する 7) 設定した看護目標の到達について根拠をもって評価する
5 看護を学ぶ学習者として主体的に学ぶ姿勢を身につける	1) 看護職としての守秘義務を遵守する 2) 看護の提供者として必要な知識・技術を主体的に学修する 3) 自ら必要に応じて、報告・連絡・相談する
6 実習を通して学んだことを振り返り自己の課題を明らかにする	1) 実習を通して学んだことについて、自らの体験をふまえて参考・引用文献を用いて考察し記載する 2) 実習全体を振り返り、自己の今後の課題を明確にし記述する

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	6.5H(1日)	オリエンテーション、事前研修
県立新発田病院(病棟)	58.5H(9日)	1事例を受け持ち、看護過程を展開する
学内	5H(1日)	まとめ

III 実習評価 実習評価表に基づき評価する

科目名	地域・在宅看護論実習	時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
科目の概要	地域で暮らす看護の対象の多様性・複雑性を理解し、地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションの機能と役割の実際から住み慣れた地域で療養を継続するための医療・介護・福祉チームの連携と看護の役割について学ぶ。		
目的	地域で暮らす看護の対象を理解し、地域・在宅看護を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 地域で暮らす人が抱える課題と地域包括支援センターの機能と役割の実際を理解する	1) 地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの機能と役割の実際を説明する 2) 地域包括支援センターを利用する対象の特徴と生活上の課題に対する社会資源の活用を説明する
2 居宅介護支援事業所を利用する対象が抱える課題とケアマネジメントの実際を理解する	1) 地域包括ケアシステムにおける居宅介護支援事業所の機能と役割の実際を説明する 2) 居宅介護支援事業所を利用する要介護者と家族の生活上の課題に対する社会資源の活用を説明する
3 訪問看護ステーションを利用する対象が抱える課題と在宅療養を支える看護の実際を理解する	1) 訪問看護を利用する療養者・家族の心身機能の特徴を説明する 2) 訪問看護を利用する療養者・家族の生活環境の実際を説明する 3) 訪問看護を利用する療養者・家族の社会資源の活用を説明する 4) 療養者・家族の生活に影響を及ぼす看護上の問題を分析する 5) 在宅における看護目標の設定理由を説明する 6) 在宅における看護計画の内容の意味を説明する 7) 療養者・家族を主体とした在宅看護の実際について説明する 8) 療養者・家族を一単位とした在宅看護の実際について説明する 9) 療養者・家族のセルフマネジメントを支える在宅看護の実際について説明する 10) 在宅看護におけるリスクマネジメントの実際について説明する
4 地域包括ケアシステムにおける医療・介護・福祉チームの連携と看護の役割を考察する	1) 地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの機能と役割の実際について説明する 2) 地域包括支援センターにおける医療・介護・福祉チームの連携の実際を説明する 3) 居宅介護支援事業所と医療・介護・福祉チームの連携の実際を説明する 4) 訪問看護ステーションと医療・介護・福祉チームの連携の実際を説明する 5) 地域包括ケアシステムを推進する上でのチームにおける看護の役割について説明する 6) 訪問看護の特性から地域・在宅看護に求められる役割について考察する 7) 地域・在宅看護の現状と今後の課題について考察する
5 地域・在宅看護を実践するために必要な倫理観と基本的な技術・態度を身につける	1) 地域・在宅看護の対象の特徴を踏まえてコミュニケーションを実践する 2) 地域・在宅看護を実践するために必要な学習を行い、技術を修得する機会を主体的に求める 3) 地域・在宅看護を実践する看護職としてふさわしい倫理観を持ち、行動・態度に示す

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	5H(1日)	オリエンテーション
地域包括支援センター	6.5H(1日)	地域包括支援センターで働く専門職に同行する
居宅介護支援事業所	6.5H(1日)	ケアマネージャーに同行し、利用者宅へ訪問する
訪問看護ステーション	45.5H(7日)	訪問看護師に同行し、利用者宅へ訪問する
学内	6.5H(1日)	まとめ

III 実習評価 実習評価表に基づき評価する

科目名	成人・老年看護学実習 I	時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
実習概要	回復期・慢性期にある成人期または老年期の対象の健康レベルとライフサイクルからみた成人期・老年期の発達段階を理解し、看護過程の展開を通して対象とその家族への看護を実践し、必要な能力を養い、回復期・慢性期看護のあり方を学ぶ。 健康障害を受容し、セルフケア能力獲得に向けた支援と健康の維持・増進と対象を支えるための保健・医療・福祉の役割とチーム体制を理解する。		
目的	回復期・慢性期にある成人期または老年期の対象とその家族を理解し、セルフケア・セルフマネジメントの獲得を促す看護を実践するための知識・技術・態度を修得する。		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 回復期・慢性期にある対象への支援の特徴を理解し、セルフケア・セルフマネジメントの状況をアセスメントし、対象の全体像を把握し、看護上の問題を明確化する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の病歴情報を収集し要約してアセスメントする 2) ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて情報を体系的に分類する 3) 成人・老年各期の身体機能・心理社会的機能をふまえて対象の状況をアセスメントする 4) 対象の病歴と身体機能・心理社会的機能をふまえて、対象の状況をアセスメントする 5) 対象の病歴や健康障害、生活や心理社会文化的影響について情報を関連付けながら統合して全体像を説明する 6) 慢性期・回復期にある対象の実在型、リスク型問題を明確化する
2 セルフケア・セルフマネジメントや自分らしい生活、対象や家族ことでのセルフケア・セルフマネジメントを支援する看護計画を立案する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 根拠をもって健康問題の優先順位を決定する 2) 対象の意見や希望を考慮しながら、対象に応じた長期目標と短期目標を設定し説明する 3) 対象の意見や希望を考慮しながら、根拠に基づいた個別的かつ具体的な看護計画を立案する
3 計画した看護援助を対象の状況に合わせて実施し、客観的かつ対象の立場の視点で評価する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実施する看護について対象に合わせた説明をする 2) 対象の反応に合わせて、安全、安楽、個別性を考えながら計画に基づいて実施する 3) 対象・家族の話をよく聞き、理解すると共に、自分の考えや思いを相手に分かるように伝える 4) 対象やその家族の自己効力感に着目し、意欲を引き出す関わりを実施する 5) 対象の入院中および退院後における生活の再構築に向けた援助を、セルフケア・セルフマネジメント理論による根拠に基づき実施する 6) 日々設定した看護目標や計画、実施が対象にとって最良の状態であるかを客観的に評価し必要に応じて計画を追加・修正する 7) 一連の実践を通して要約し、看護目標の評価、介入の妥当性について根拠をふまえて客観的に振り返る 8) 対象への安全・安楽・倫理に配慮した看護実践に向けた知識・技術・態度を修得する機会を求めると
4 対象と家族がセルフケア・セルフマネジメントにより自分らしい生活を実現するための看護の価値を考察する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護実践場面をもとに、セルフケア・セルフマネジメントによる自分らしい生活に向けた看護で大切なことについて自己の考えを示す 2) 疾病や障害を持ちながら生きる人やその家族の思い、生活を支えるための看護師の役割について自己の考えを示す
5 看護専門職としてふさわしい態度を身につける	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師を主とする医療スタッフや教員と報告・連絡・相談する 2) 主体的に実習に臨み学習をすすめる

	<p>3) 対象や病院内の出来事に対し守秘義務を遵守する</p> <p>4) 実習グループ内でのカンファレンス時に自己の意見が述べられ、メンバーと意見の共有をする。</p> <p>5) 対象や家族に関心・思いやり、それを表現する</p> <p>6) 対象や医療スタッフへの影響や不利益を考慮し、看護職としてふさわしい行動・態度で実習に臨む</p>
--	---

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	5H(1日)	オリエンテーション
県立新発田病院(病棟) 県立リウマチセンター(病棟)	65H(10日)	1事例を受け持ち、看護過程を展開する

III 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
実習概要	周手術期や生命の危機状態にある対象の健康レベルとライフサイクルからみた成人期・老年期の発達段階を理解し、対象とその家族における看護過程の展開を通して、看護実践に必要な能力を養い、急性期看護のあり方を学ぶ。受け持ち患者の手術見学および集中治療室ICU・CCUでの見学実習を通して急性期における看護実践方法・役割、チーム医療について考えを深める。		
目的	急性期にある対象とその家族を理解し、生命維持・健康回復への看護を実践するための知識・技術・態度を修得する		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 周手術期にある対象への支援の特徴を理解し、術前・術中・術後の生体反応や合併症予防、日常生活の自立/自律の状況をアセスメントし、対象の全体像を把握し、看護上の問題を明確化する。	1) 周手術期にある対象の病態情報を収集し要約してアセスメントする 2) ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて情報を体系的に分類する 3) 成人・老年各期の身体機能・心理社会的機能をふまえて対象の状況をアセスメントする 4) 周手術期の病態と心理社会的機能をふまえて、対象の状況をアセスメントする 5) 周手術期の病態や健康障害、生活や心理社会文化的影響について情報を関連付けながら統合して全体像を説明する 6) 周手術期にある対象の実在型、リスク型問題を明確化する
2 術前・術中・術後の合併症予防や日常生活の自立/自律を支援する看護計画を立案する	1) 根拠をもって健康問題の優先順位を決定する 2) 対象の意見や希望を考慮しながら、対象に応じた長期目標と短期目標を設定し説明する 3) 対象の意見や希望を考慮しながら、根拠に基づいた個別的かつ具体的な看護計画を立案する
3 計画した看護援助を対象の状況に合わせて実施し、客観的かつ対象の立場の視点で評価する	1) 実施する看護計画について対象に合わせた説明をする 2) 対象が心身ともに最良の状態です術を受けられるように援助を実施する 3) 術中の状態変化をふまえて、術後の適切な観察を実施する 4) 離床に伴う不安・苦痛に共感しながら、術後の合併症を予測し予防するための援助を実施する 5) 対象にとって自立・自立した退院後の生活の再構築を目指し、セルフケア・セルフマネジメントに応じた援助を実施する 6) 日々設定した看護目標や計画、実施が対象にとって最良の状態であるか客観的に評価し必要に応じて計画を追加修正する 7) 一連の看護実践を要約し、看護目標の評価、介入の妥当性について根拠をふまえて振り返る 8) 対象への安全・安楽・倫理に配慮した看護実践に向けた知識・技術・態度を修得する機会を求める
4 手術を受ける対象・家族が健康回復に向かうための看護の価値を考察する	1) 具体的な看護実践場面を通して、手術を受ける対象・家族が健康回復に向かうための看護で大切なことについて自己の考えを示す 2) 対象の手術による心身の状態変化や合併症予防、日常生活の自立/自律に向けた回復過程における看護師の役割について自己の考えを示す
5 救命救急センターの機能と役割、急性期の状態にある対象および家族への看護を理解する	1) 急性期における看護実践の根拠や看護上の留意点、倫理的配慮を説明する 2) 救命センターの機能と役割、急性期の状態にある対象および家族への看護に対する自己の考えを示す
6 看護専門職としてふさわしい態度を身につける	1) 看護師を主とする医療スタッフや教員へ報告・相談、学生間で実習が円滑に進むための情報共有や連絡をしている

	<p>2) 主体的に実習に臨み学習をすすめている</p> <p>3) 対象や医療スタッフへの影響や不利益を考慮し、看護職としてふさわしい行動・態度で実習に臨む</p>
--	---

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	5H(1日)	オリエンテーション
県立新発田病院(病棟・手術室)	58.5H(9日)	1事例を受け持ち、看護過程を展開する 受け持ち患者の手術を見学実習する
県立新発田病院(集中治療室ICU・CCU)	6.5H(1日)	見学実習

III 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
科目の概要	人生の最終段階にある対象とその家族を身体的、精神的、社会的、霊的(スピリチュアル)、文化的側面から総合的にとらえ看護過程の展開を通して対象のQOL向上にむけた看護を学ぶ。対象とその家族のライフスタイルと生活環境を踏まえたその人らしい生活のあり方を考え、終末期にある対象とその家族への看護師の役割・機能を考える。		
目的	治癒及び回復が困難な対象とその家族を理解し、その人らしい生活を全うできるような看護を実践するための知識・技術・態度を修得する。		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 成人期・老年期の終末期にある対象と家族を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 終末期にある成人期・老年期の対象の発症段階や病状の理解に関する情報を収集する 2) 対象の身体的・心理的・社会的・霊的(スピリチュアル)、文化的側面から情報収集し説明する 3) これまでのライフスタイルと生活環境をふまえ、その人らしい生活のあり方を説明する
2 終末期にある対象の健康問題を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象に生じている器質的変化・機能的変化、症状を、解剖生理、病態生理、機能的障害のメカニズムの知識に基づき説明する 2) 対象への検査・治療・処置の目的とそれが身体的・心理的側面に及ぼす影響について説明する 3) 健康障害や治療が対象の日常生活の及ぼす影響について説明する 4) 対象が、疾病や治療による状態の変化と影響をどのように受け止め対処しているか説明する 5) 予測される機能変化や合併症とその対応について説明する 6) 対象の身体・生活・心理・スピリチュアル・社会・文化的視点、全人的苦痛の視点からの情報を系統的に関連付け、統合的に分析・解釈する 7) 系統的に分析・解釈した内容から全体像を説明する 8) アセスメントの内容から対象の看護課題その人らしさ、QOL、安楽、全人的苦痛の観点から決定する
3 終末期にある対象の健康状態に応じた看護を実践する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康問題の根拠を原因・誘因、成り行きから分析し看護の方向性を決定する 2) QOLの考えに基づき対象やその家族の選択権、自己決定権を尊重し実現可能な目標を対象や家族とともに共有する 3) 対象の身体・生活・心理・社会・文化的特徴と科学的根拠に基づいた個別的な看護計画を立案する 4) 日々対象の症状・反応の変化を観察しながら、個別的で安全・安楽・自立に配慮した援助を実施する 5) 対象や対象の家族の全人的苦痛を最小限にするために安楽に向けた援助を実施する 6) 対象の希望を考慮した上で、状態の変化を把握し必要に応じて方法の変更や中止を検討する 7) 日々設定した目標や計画、実施が対象にとって最良の状態であるかどうかを評価し修正する 8) 実施した援助を客観的に見つけ、根拠をふまえ批判的かつ論理的に吟味して根拠に基づき看護計画を評価する
4 看護として多職種と連携・協働する必要性を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 終末期にある対象に応じた多職種協働によるチームアプローチの必要性を説明する 2) 対象と家族に応じた療養の場への移行に伴う必要な援助を説明する 3) 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割のわかり自己の考えを述べる
5 対象への看護実践を通して、看護に対する価値を見出す	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の看護を通して「生と死」について自己の考えを述べる 2) 対象の看護実践場面をもとに対象の安楽に向けた看護で大切なことについて文献を用いて自己の考えを述べる
6 看護専門職としてふさわしい態度を身につける	<ol style="list-style-type: none"> 1) 主体的に実習に臨み周囲への影響を考慮した対応をする(身だしなみ、言葉遣い、挨拶、約束・ルールを守る、自己の心身の健康管理など) 2) 対象や家族の尊厳を守り擁護的立場で行動し誠実な対応をする 3) 必要に応じて、学生間・医療スタッフ・教員と情報共有・意見交換・報告・連絡・相談を適切に行う

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
------	----------	------

学内	5H (1日)	オリエンテーション
県立新発田病院 (病棟)	65H (10日)	治癒および回復が困難な対象とその家族の看護

Ⅲ 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	老年看護学実習	時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
科目の概要	老年期における対象の生活史や生きてきた時代背景に興味・関心を持ち、多様性・価値観を尊重したコミュニケーションを学ぶ。高齢者を生活者として捉え、生活機能の観点から看護過程を展開する。また、加齢変化と疾患により、その人らしい生活を妨げる健康問題と対象の“もてる力”を理解し、健康逸脱から回復促進、QOL維持・向上にむけた看護を学ぶ。高齢者と家族を取り巻く環境を理解し、多様な生活の場を支えるための保健・医療・福祉の役割とチーム体制を学ぶ。		
目的	老年期にある対象者とその家族を理解し、多様な生活・療養の場に向けた看護の基礎となる知識・技術・態度を修得する		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 老年期にある対象の特徴を捉え、その人らしい生活を送る上での健康問題と“もてる力”を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象のこれまでの生活環境・生活行動についての情報を収集する 2) 老年期の特徴と疾患・入院・治療を捉え、身体的・心理的・社会的側面から情報を収集する 3) 入院に伴いその人らしい生活を妨げる要因を身体的・心理的・社会的側面から分析する 4) 対象の健康逸脱から回復促進に向けたもてる力を分析する 5) 老年期にある対象を生活者として捉え、その人らしい生活のあり方を分析する 6) 老年期にある対象のその人らしい生活に影響を与える原因・誘因を分析し、健康問題で説明する
2 老年期にある対象の生活機能に着目し、その人らしい生活に向けた看護計画を立案、評価する	<ol style="list-style-type: none"> 1) その人らしい生活に影響を及ぼす看護課題の優先度を生活機能の観点から決定する 2) 看護課題と根拠、成り行きを説明し、実現可能な看護目標を設定する 3) 対象のもてる力を活かした根拠のある看護計画を立案する 4) 対象の特徴と反応を踏まえ、実施する看護の根拠・目的・方法について説明する 5) 対象の健康状態を把握し、必要に応じて援助の変更や中止を検討する 6) 対象の反応から実践した看護を振り返り、必要に合わせて看護計画を追加・修正する 7) 対象のその人らしい生活と生活機能を踏まえた一連の看護実践を要約し、看護目標の評価、介入の妥当性について根拠を踏まえて総合的に評価する
3 老年期にある対象の“もてる力”を活かし、対象の状態に応じた援助を実践する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の生活史や生きてきた時代背景を踏まえ、人格・尊厳・価値観を尊重したコミュニケーションを実践する 2) 対象のその人らしい生活やQOLの維持・向上を踏まえた看護を実践する 3) 対象のもてる力、自立の視点で援助を実践する 4) 対象の健康状態・状況に合わせて安全・安楽に留意した援助方法を選択し、対象の反応を捉えながら実践する
4 老年期にある対象の生活を支えるための保健・医療・福祉システムとチーム体制を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 介護老人福祉施設の利用者のケア環境と施設における看護の役割、多職種連携・協働について説明する 2) 退院支援における多職種連携・協働と看護の役割について説明する
5 老年期にある対象に実践した援助を振り返り、老年看護の価値を考察する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活機能に着目して実践した看護を振り返り、その人らしい生活に向けた看護について自己の考えを述べる 2) カンファレンスで自分の意見が述べられ、グループメンバーとの意見の共有ができる
6 看護専門職としてふさわしい態度を身につける	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の援助に必要な知識・技術・態度を修得するための機会を積極的に求める 2) 看護職者としてふさわしい態度・行動を示す

3) 自身の健康管理を行い、チームの一員として行動する

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	5H(1日)	オリエンテーション
県立新発田病院(病棟) 県立リウマチセンター(病棟)	52H(8日)	老年期にある対象を受け持ち看護過程を展開する
特別養護老人ホーム	13H(2日)	施設で生活する高齢者の看護の実際を見学する 地域で生活しデイサービスを利用する高齢者の看護の実際を見学する

III 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	小児看護学実習	時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
科目の概要	健康な乳幼児の成長・発達に応じた日常生活の援助や、子どもを守り育てる環境について、2日間の保育園での実習から学ぶ。健康な学童期の成長・発達に応じての関わり方や学校保健の実際を1日間の小学校での実習から学ぶ。健康障害を持つ小児を受け持ち、成長・発達段階及び健康状態に応じた看護を通して小児とその家族に及ぼす影響について、看護過程を展開し学んでいく。		
目的	小児期にある対象とその家族を理解し、看護を実践するための知識・技術・態度を修得する		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 健康な乳幼児の成長発達を理解し、保育の実際を説明する	1) 乳幼児の成長をはぐくむ為に必要な保育環境を説明する 2) 乳幼児の成長発達を説明する 3) 基本的な生活行動の自立状況から、援助のあり方を説明する 4) 発達段階における乳幼児のコミュニケーション方法を説明する
2 健康な学童の成長発達を理解し、学校保健の実際を説明する	1) 学童期の成長発達状況・健康問題を説明する 2) 学童期の小児の健康管理や健康教育活動を説明する
3 健康障害を持つ小児と家族を理解し、発達段階、健康問題にあわせた看護を実践する	1) 疾病経過・症状・検査・処置・治療を説明する 2) 出生時および成長発達の状況を説明する 3) 入院前後の生活状況及び入院・病気に伴う苦痛と適応状況を説明する 4) 患児の入院・病気に対する家族の理解と対処状況を説明する 5) 患児の入院に伴う家族への影響を説明する 6) 健康障害や発達段階に合わせたコミュニケーションを実践する 7) 患児・家族の気持ちを配慮した関わりを実践する 8) 患児にとって必要な観察ポイントをあげ、観察を実践する 9) 患児の健康障害のレベル・成長発達に合わせて健康回復への適切な援助を実践する 10) 患児の家族に対して適切な援助を実践する 11) 小児の特性を理解した看護技術を実践する 12) 小児病棟の構造・設備から、事故防止・感染予防対策を説明する 13) 病棟実習を通して自らの体験をふまえて学んだことを、引用・参考文献を用いて考察し、記述する
4 小児科外来の特徴と看護の実際を理解する	1) 治療・処置・検査の実際を見学し、必要なケアを説明する 2) 専門外来にて、通院治療を受けている小児・家族の疾病への取り組み方を説明する
5 NICUの特徴と看護の実際を理解する	1) NICUの概要を理解し、ハイリスク児の看護の実際を説明する 2) 家族への援助を説明する
6 看護専門職としての倫理観をもったふさわしい態度を身につける	1) カンファレンス等で意見交換をしながら、主体的に学習する 2) 対象や家族、医療スタッフへの影響や不利益を考慮し、看護職としてふさわしい行動・態度で実習に臨む。

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	5H(1日)	オリエンテーション
保育園	13H(2日)	健康な乳幼児の成長発達と保育の実際を理解する
小学校	6.5H(1日)	健康な学童の成長発達と学校保健の実際を説明する
県立新発田病院(病棟)	32.5H(5日)	健康障害を持つ小児1事例受け持ち看護過程を展開する

県立新発田病院 (小児科外来)	6.5H (1日)	小児科外来で行われる看護の実際を見学する
県立新発田病院 (NICU)	6.5H (1日)	NICUで行われる看護の実際を見学する

Ⅲ 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	母性看護学実習	時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
科目の概要	妊娠期の看護では、妊婦健康診査・保健指導を見学し妊婦の看護を理解する。 分娩期・産褥期・新生児期の看護では、産婦、褥婦、新生児を受け持ち身体的、心理的、社会的側面の看護を学ぶ。 看護過程を展開し看護実践を行うなかで、家族を含めた対象への母性看護を学ぶ。		
目的	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象と家族を理解し、看護を実践するための知識、技術、態度を修得する		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 妊婦と家族を理解し、妊娠期に必要な看護を説明する	1) 妊娠に伴う身体的変化を説明する 2) 妊婦の精神・社会的変化を説明する 3) 妊婦健康診査および保健指導の目的・意義を説明する
2 産婦と家族を理解し、分娩期に必要な看護を説明する	1) 産婦の身体的変化を説明する 2) 分娩各期および帝王切開術による身体的・精神的援助を説明する 3) 分娩室の設備・構造・環境の特殊性を説明する
3 褥婦と家族を理解し、対象に必要な看護を実践する	1) 産褥期の身体的変化を説明する 2) 褥婦の精神・社会的変化を説明する 3) 妊娠期・分娩期および産褥経過の情報を収集できる 4) 収集した情報を統合しアセスメントできる 5) 対象の母児を一体化して捉え、必要な看護を明確にする 6) 対象の個別性を踏まえた看護計画を立案できる 7) 計画した看護を対象のセルフケア能力を考慮し実践できる 8) 実践した内容を振り返り評価できる 9) 産褥期の指導を見学し目的・意義を説明する
4 新生児と家族を理解し、新生児期に必要な看護を実践する	1) 新生児の身体的特徴を説明する 2) 新生児に必要な看護・処置・検査・治療を見学し目的・意義を説明する 3) 胎児期・出生時新生児経過の情報を収集しアセスメントできる 4) 安全に配慮して看護技術を実施できる
5 母性看護の対象と母性保健について説明する	1) 母性看護の対象と多職種連携、看護の機能について説明する 2) 母性保健に関連する地域の社会資源について説明する 3) 病棟実習を通して自らの体験をふまえて学んだことを、引用・参考文献を用いて考察し、記述する
6 看護専門職として相応しい態度で実習に臨む	1) 対象や家族に対し思いやりと責任ある態度で関わる 2) 倫理的態度で実習に臨み、必要な報告・連絡・相談を行う 3) 主体的に実習に取り組み、メンバーシップを発揮する

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	5H(1日)	オリエンテーション 看護技術演習 病棟、産科外来オリエンテーション(実習指導者)
県立新発田病院(産科外来)	6.5H(1日)	妊婦健康診査・保健指導を見学 妊婦とコミュニケーションを図る
県立新発田病院(新生児室)	6.5H(1日)	新生児の看護・診察・処置・治療を見学
県立新発田病院(病棟)	6.5H(1日)	助産師に同行し妊娠期・分娩期・産褥期看護を見学

県立新発田病院 (病棟)	39H (6日)	褥婦・新生児を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践
学内	6.5H (1日)	演習 まとめ

Ⅲ 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	精神看護学実習	時期	3年次 前期 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	2単位(70時間)、11日間
科目の概要	精神科病棟に入院中の患者との対人関係を発展させ、その振り返りを行うことで、対象理解や状況理解だけでなく、対人関係における自己の傾向を知る。 地域で生活する障害者の社会参加の実態に触れることを通して、精神障害者の地域における生活支援についての理解を深める。		
目的	精神に障害のある対象とその家族を理解し、看護を实践する知識・技術・態度を修得する。		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 保健医療福祉チームの一員として、精神に障害をもち入院している対象の人権擁護と看護師の役割について理解する	1) 病院や病棟の治療的環境が対象に及ぼす影響について述べる 2) 対象の人権を守るための看護活動について、精神保健福祉法に関連づけて述べる 3) 精神科における多職種連携のメンバーと其中での看護師の役割について述べる
2 精神に障害をもち入院している対象の健康問題を把握し、必要な援助を实践する	1) 対象を身体的側面から説明する 2) 対象を心理的・社会的・文化的側面から説明する 3) 治療内容と関連させながら身体的側面から分析する 4) 発達段階と関連させながら心理的・社会的・文化的側面から分析する 5) 収集した情報を互いに関連づけて説明する 6) 分析結果を統合し、看護問題と個別性のある看護目標を設定する 7) 対象に応じた個別性のある看護計画をタイムリーに立案し、必要時追加・修正する 8) 対象の対人傾向にあわせた援助をタイムリーに安全に実践する 9) 目標達成状況や援助内容を客観的に評価し、必要時は修正する 10) コミュニケーション技法を活用し、治療的かわり方を考えたコミュニケーションがとれる 11) 精神看護学実習における自己の学びについて文献を活用しながら具体的に述べる
3 対象との関わりを通して自己の内面の変化に気づき、自己洞察する	1) 対象の言動と自分の言動を、プロセスレコードを通して振り返ることができる 2) 自分の思考や感情の傾向に気づき、考察する
4 精神に障害をもちながら、地域で生活している人に必要な支援について理解する	1) 地域における支援事業の役割と、関わる人びとの役割や活動内容について述べる 2) 利用者の生活環境や利用している社会資源について、障害者総合支援法に関連づけて述べる 3) デイケア利用者の目的と意義、かわる人びとの役割について述べる
5 看護専門職としてふさわしい態度を身につける	1) 適切にスタッフや教員と報告・連絡・相談をおこない、チームの一員として行動する 2) 事前学習や追加学習を活用し、主体的に実習に取り組める 3) 自身の健康管理をおこない、記録の提出期限をまもる

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	5H(1日)	オリエンテーション
県立新発田病院(病棟)	4.8H(7.5日)	1事例を受け持ち、看護過程を展開する
県立新発田病院(デイケア)	4H(0.5日)	デイケアに通う精神障害者とスタッフの関わりを見学する
障害福祉サービス事業所	6.5H(1日)	事業所に通う利用者と共に活動を実施し、地域生活支援の実態を見学する
学内	6.5H(1日)	精神障害者の人権擁護と多職種連携における看護師の役割についてグループワーク

III 実習評価

実習評価表に基づき評価する

科目名	統合実習	時期	3年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間)、日数	3単位(105時間)、14日間
科目の概要	本実習は、専門分野の臨地実習における最終段階として位置づけ、医療チームにおける安全で効果的な看護を提供するために必要な様々な看護マネジメント(看護管理、医療安全、倫理的視点、時間管理等)の実際を学ぶ。また、多職種との連携について理解を深める中で専門職としての看護実践のあり方や自己の課題を明らかにする。		
目的	対象の健康と生活を支援する医療チームの一員として、知識、技術、態度を統合した看護専門職として必要な看護実践能力を修得する		

I 実習目標・行動目標

実習目標	行動目標
1 複数受け持ちを通して、多重課題における臨床判断及び看護の優先順位・時間管理を踏まえた援助を実施する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 多重課題における看護師が行っている看護の優先順位の判断について、その根拠を説明する。 2) 看護師の臨床判断に基づく看護について説明する。 3) 複数受け持ち患者の看護に必要な情報を優先順位を考えながら収集する。 4) 複数受け持ち患者に必要な看護を優先順位・時間管理を考慮し計画している。 5) 科学的根拠に基づき安全・安楽・自立に配慮しながら個別的な看護を実践している。 6) 患者の反応をとらえながら、その日の状況に応じた適切な看護を見出し、優先順位とその対象へのケアの時間配分を、根拠をもとに考え実践している。 7) 実施結果を報告すべき優先順位を判断し、系統的・客観的かつ簡潔に報告する。 8) 日々の看護実践から、主観的・客観的情報を収集・分析し、系統的にSOAP形式で記録し、看護実践を評価している。 9) 計画の追加修正を適宜行い、最終的に実施した看護を客観的に見つけ批判的かつ論理的に吟味して看護を評価する。
2 病棟における医療安全管理体制と具体策を理解し実践する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 組織における医療安全管理体制の実際について説明する。 2) 看護師が行っている医療安全の視点を説明する。 3) 医療安全の視点から具体策を考え、看護実践している。
3 病棟における看護管理の実際を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護ケア・看護サービスの管理について記述する。 2) 組織の一員としての看護マネジメントについて自己の学びを述べる。
4 看護チームの一員としてのリーダーシップ及びメンバーシップについて理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1) チームにおけるリーダーシップの役割と必要性を説明する。 2) チームにおけるメンバーシップの役割と必要性を説明する。
5 地域連携・及び専門職種間連携の実際を理解し、保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療福祉チームの連携場面から看護の役割を説明する。 2) 看護実践から看護専門職としての役割を説明する。 3) 患者サポートセンターの設置背景・役割・機能を理解し、継続看護の必要性について事例から考察する。
6 専門職として倫理的指針のもと行動し、看護者としての自己の課題を見出す	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護職の倫理綱領を考えながら看護実践し省察する。 2) 同行や看護実践場面をもとに、文献を用いながら自己の看護観についての考えを示す。 3) 対象への安全・安楽・倫理に配慮した看護実践に向けた知識・技術・態度を修得する機会を主体的に求める。

	4) 主体的に思考・判断し行動する中で自己の課題を見出す。
--	-------------------------------

II 実習構成

実習場所	実習時間(日数)	実習内容
学内	5H(1日)	オリエンテーション
県立新発田病院(病棟)	75H(10日)	看護管理、医療安全、倫理的視点、医療チームとの連携 数受け持ち、優先順位
患者サポートセンター(学内)	4H(0.5日)	保健医療福祉の連携、継続看護の必要性(講義、GW)
患者サポートセンター(新発田病院)	7.5H(1日)	保健医療福祉の連携の実際、継続看護の理解
学内	13.5H(1.5日)	まとめ

III 実習評価

実習評価表に基づき評価する